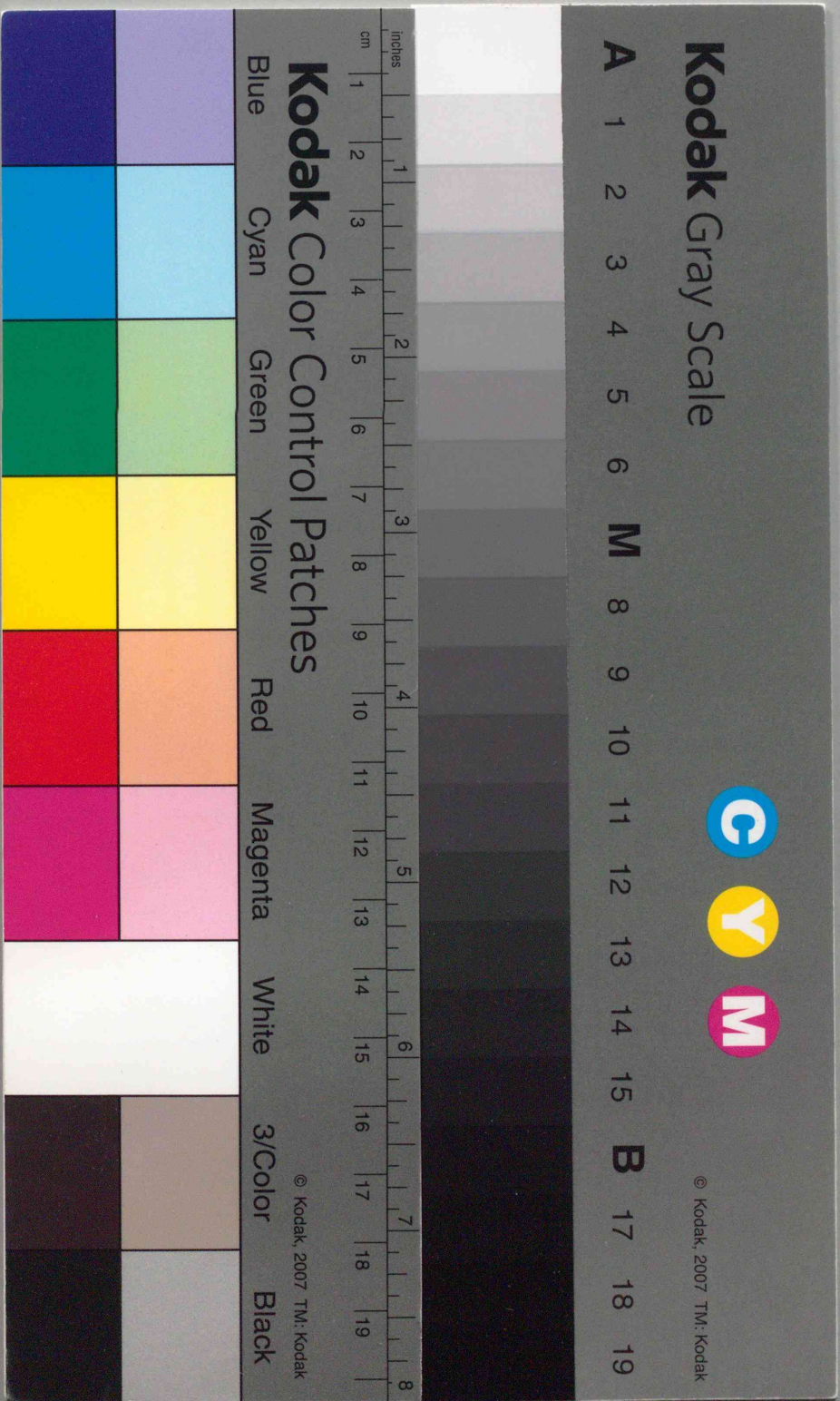


雜  
二

第 二 百 七 十 七 號

九 元	八 大	三 三	二 三	五 六	一 十	三 四	五 七	九 〇	二 三
尾尾	度長	桐峯	淡野	山田 牧長	山中	野卷	倉司	土前	山口





# 神奈川縣教育關係職員錄

昭和六年版

御入用の方は殘本のある限りお頒けいたしますか  
ら、至急御申込み下さい

實費 金 五拾錢 (送料共)

附。發送濟みの代金は本月限り御送りを願ひます

## 縣 通 牒

昭和六年八月二十八日

學 務 部 長

各 學 校 長 殿

### 學校職員ノ思想取締ニ關スル件

學生生徒ノ思想善導並取締ニツキテハ各校適切ナル計畫施設ノ下ニ相當ノ效果ヲ  
收メツ、アルモ、近時ハ動モスレハ教育ニ關スル雜誌、講習會等ヲ利用シ、巧ニ教  
育者間ニ誘惑ノ魔手ヲ延ハシツ、アルヤニ聞及ヒ候ニ付キテハ、各位ハ一層部下職  
員ノ統督指導ヲ嚴ニシ之等外間ノ誘惑ヲシテ、苟モ乘スルノ間隙ナラシムルヤウ篤  
ト留意相成度依命此段及通牒候也



## 師範教育改善促進聯盟決議

- 一、師範教育ヲ施ス學校ハ師範學校及ヒ師範大學トスルコト
- 一、師範學校ハ本科豫科ニ分チ、ソノ本科ハ必ズ之ヲ三ヶ年トシ本科卒業者ハ師範大學ノ本科ニ入學スルノ資格ヲ與フルコト
- 一、師範大學ハソノ修業年限ヲ四ヶ年トシ、師範學校ノ卒業生又ハ大學豫科修了者及ヒ同等ノ學力ヲ有スルモノヲ入學ヲセシムルコト
- 一、東京及ヒ奈良女子高等師範學校ハ各之ヲ女子師範大學トスルコト
- 一、師範學校生徒ノ學資給與ノ制度ハ必ズ之ヲ存續スルコト

昭和六年八月二十三日

### 師範教育改善促進聯盟

帝國教育會	全國聯合教育會
帝都教育會	國民教育獎勵會
茗溪會	師範學校長協會
全國聯合師範同窓會	櫻蔭會
佐保會	尙志同窓會

## 神奈川縣下小學兒童

### 製作品展覽會

近來電氣の用途は益々發達致しまして、吾々の日常生活に最も緊密な關係を有する様になりました。此度本會に於て電氣の理解並に應用を一般に普及せしむる爲、神奈川縣並に横濱市の後援を得て、十月十五日より同月廿五日迄横濱電氣展覽會を開催致しますに就ては、此の機會に小學兒童の電氣に因む製作品を陳列致します事は展覽會の主旨よりして適切な催しでありますと共に、兒童に電氣に關する智識を喚起する上に於て最も有意義な事であると考へます。

幸ひ御贊同下さいまして充分御後援御盡力の程をお願い致します。

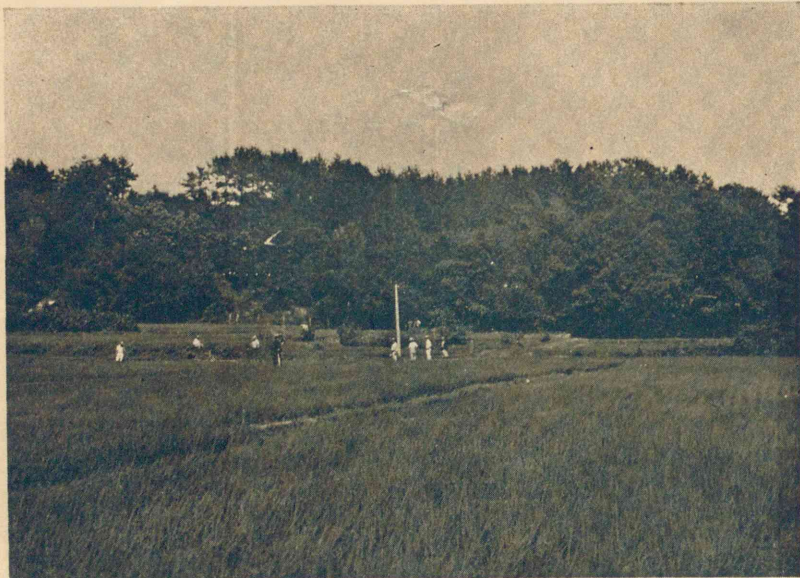
神奈川縣下

### 小學兒童製作品展覽會規定

- 一、會場 横濱商工獎勵館ニ於テ開催ノ横濱電氣展覽會内ニ陳列ス
- 二、會期 自十月十五日至十月廿五日



早川城趾全景



高座郡綾瀬村字早川ニ在リ  
物見塚（城南山ノ丘）



塚丘ニハ綾瀬村青年團幹部百餘名

三、出品規定

イ、種目 電気ニ因ム圖書、手工品

（電気ヲ主題トセル又ハ電気ニ關係アル物及事項ヲ取り入レタル圖書、手工品）

ロ、出品點數 十學級迄ハ十點以內五學級ヲ増ス

毎ニ二點ヲ増ス事ヲ得

ハ、成績品ノ大サハ平素學習ノ際ノ大サヲ標準トスルコト

ニ、成績品ニハ必ズ郡、市、校名、學年、兒童氏名ヲ明記ノコト

ホ、九月廿日迄ニ出品申込ノコト（別紙申込用紙參照）

ヘ、成績品ハ十月一日ヨリ十月十日迄ノ間ニ於テ出品目錄（別紙參照）ヲ添ヘテ左記宛達送ノ

四、參加章

出品成績品ハ審査セズ、出品兒童全部ニ對シ參加章ヲ呈ス

主催

社団法人

電気協會關東支部

後援

神奈川県・横浜市

コト

横浜市神奈川區裏高島町二ノ三

東京電燈株式會社橫濱支店內

橫濱電気展覽會事務所

ト、各校ノ出品ハ其ノ校ニ於テ適當ニ整理セラレ度キコト、但表裝等ニ要スル經費ハ出品者ノ自辨トス

送達ニ用スル郵税ハ主催者ノ負擔トス

チ、成績品ハ主催者ニ於テ陳列致スベキニヨリ一任セラレタキコト

リ、出品物ハ主催者之ヲ保管ス、但天災異變ニ依ル毀損ハ此ノ限リニ非ズ

又、出品物ハ主催者ニ於テ返送ス



口 繪

東郷大將祖先の地として最近著聞さるゝに至つた本縣高座郡綾瀬村大字早川に在る古城趾である。

兵馬の權を掌握せる鎌倉頼府近くその早川城にありて源家三代に仕へし澁谷太郎重直父子。春風秋雨七百年。今將青苔深くとさせる茂みに、露草の眸夢の如く淡し。

夏草や強者ともが夢のあと

芭 蕉

誄 詞

實に龍蹄冀北を退けは、馬群遂に空しとかや。政界の偉器、濱口前首相こそは、誠實謹嚴、高節清操、稀にみる紳士の典型として、譬へば富嶽の群巒を俯瞰するが如くなりし、遇々不慮の災禍にあひ、傷痕癒えずして遂に溘死せらる。

臨終の一語、傳へ謂ふ、「お世話になりました」と、辭、簡なれど、其の情、深くして長きを覺ゆ、一座肅然、襟を正し、竊に袖を絞る、特、近侍の人々にのみあらさるなり。

切々たる哀音は吾人の心腸に思愁し、嫋々たる悲調は歎歎を促して竭ささるなり、噫、悲しい哉。

卷頭、語に寄す處、(大地は靜かに動く)這裡適と公を觀る。廻、敢えて薦めて、新たに、公の偉靈に奉り、恭しく其の芳魂を弔はんかな。

殉國の忠死を悼みては、山川長へに黎民の胸臆に銘せんことを祈らん。噫、傷しい哉。(Y S 生)

昭和六年八月二十九日國民葬に當つて



# 大地は静かに動く (巻頭言)

## 序

蕉翁の語に言へらく「山は静にして性を養ひ、水は動いて情をなくさむ。静動ふたつの間にしてすみかを得るものなり。」と。

## 山 よ

翠巒、残雪を載せて、雲烟の間にほのめくところ、千古の湖水は、山の女神の緑の髪を洗ふを思はしめ、萬年の黒林、將た又彼女の遊ぶの地たるをしのばしむ。

己にして紫電巖下にひらめき、天、條忽としてはた、かみを驅れば、颶風こゝに吼え、白雨こゝに降り、閃々轟々地軸のためにゆるくばかり。

而も雷をさまり、雲しりぞけば、五彩の霓雲高くなびきて、女神の繡裳遠く長く遙かにひき、浴後の容姿一層の氣高さを増して、栖鶻の危巢も、斷崖の蒙茸も、さながら、其の抱擁裏にあるが如しあゝ山よ。静寂にして幽邃なる山よ。

## 海 よ

白帆一片、日邊より來りて、烟波縹渺の間、乙姫のゐたまふてふ底ひの宮、如何に無盡の秘密を藏しやる。

海若の捧げ出る太陽、はやくに昇りて、萬里サツと銀蛇を遣れば、彼方咲き誇る文化の花の色も、椰子の葉蔭にさゝやくローマレスの語も浪のまに／＼揺れもて來ぬらん。

櫻貝、梅貝、ひろふ乙女子の海、こはこれ動の小なるもの。  
さはれ、一陣の魔風の下、垂天の雲、しきりに水を呼べば、八大龍王波上に躍つて、天地晦暝、狂瀾怒濤巖を噛み、船を呑む。  
あゝ海よ、動の極致なる海よ。

## 人 よ

汝、大なるものを愛し得ざるは、汝の幸福には非ずして、汝自身の不幸なるを知れ、汝、人類を愛さずとも、人類は平等なり。されど汝の心は平和を失ふ、空虚になる、それは汝の損以外にはあらず汝、自然を愛さず、自然至つて平氣なれども、汝の荒むを免かれず、自然を愛することが出来ないことは誇りにはあらず、汝の心霊のたゞ餓えるのみ、美德は他人の爲にも至つてよきものなり。汝の生命を永遠のものに結びつけない美德、こんなものがあれば、それは偽善と思へ (武者小路)

## 結 び

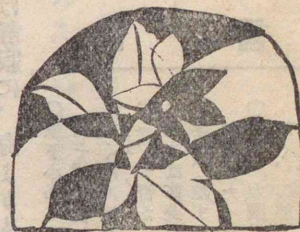
人も獸も虫けらも、善惡美醜を、悉皆同居抱擁して、報酬なく、不平なく、恩怨なく、山よりも尙ほ静寂に、海よりも尙ほ雄偉に、大地は、おゝ、静かにしづかに動くよ。(昭和六・八・二〇日)

○縣下小學三百餘校、本誌をとらざるものに一、二校あり、其の説に曰く、益する所尠ければなりと、何ぞ、夫收むるに慧敏にして施すに無智なる、要は金にあらずして志氣に在り、乞ふ縣下六千の教育者よ。  
○諸か否か  
速きは修養の至れるなり。おくるも猶忠實なるを知るべし。

## 言 苦

遂に、應ずるなき當に紳士の道をか、手も口も動かさぬは不況の祟ではよもあるまじ。さりとて日頃の武士道の顔がたつまい。一事が萬事、教育のことおして知るべきか、何々。  
○内務、大藏、若りと地方教育整理を策す、曰く、學級定員制の撤廢、曰く、學校の廢合、曰く、補助教員の廢止、曰く、二部及複式教授制の獎勵、碌なものもなし、そは整理にあらずして正に教育の破壊なればなり。吾人は更に深く憂ふ、かくして教育精神刻々萎微振はざるに至らんことを。





## マルクスの

## 閱歴と其思想

東大教授 深 作 安 文  
文學博士

### ◇マルクスの閱歴

マルクス主義を理解する豫備知識としてマルクスの閱歴を見る必要があると思ふ。

マルクスは西暦一八一八年五月五日、プロシヤのトリエルにユダヤ人を父母として生れた。マルクス家の社會的地位は左程低くはなく、父も母も共に高等教育を受け、父は辯護士にして公證人を兼ねて居た。父はトリエルの役人にならんとして一の難關に打つた。それは市の條規に猶太教信者は市の吏員たり得ざる旨を記して居る。ために彼は改宗を餘儀なくされた。このことはマルクスの子供心に、政府の壓制なこと、信仰の自由の奪はれてゐることを考へさせられたのである。子供心に政府に對する反抗心を生ぜしめた。長じて、父の意見に従ひボン大學、ベルリン大學を卒業した。彼は法律を修めたのであるが、更に哲學に興味を有ちヘーゲルに傾倒した。即ち辯證法の研究である。一八四一年「デモクリトス及びエピクソロスの自然哲學の差異」といふ論文を提出して博士となつた。以て彼の學問的素養の如何に深かりしかを理解することが出来る。彼はやがてボン大學の哲學講師たらんとしたが、ここにも難關がマルクスを待ち設けてゐた。プロシヤの大學は政府の監督が極めて厳しく、マルクスの如く政治や社會に對しの急進的思想を有するものは一切教師と

しなかつた。そこで彼は到々大學教師たることを得ずして方向を轉換し、翌年自由主義を標榜するライン新聞の主筆となつた。そして極端なる自由主義を基礎として當時の政治を批判したため、遂に政府はその翌年ライン新聞の廢刊を命じた。マルクスはフランスのパリーに亡命したが、このパリー行は彼に大なる刺戟を與へた。マルクスは此處で經濟學を専攻し傍ら社會主義を研究し、社會主義者や無政府主義者と交つた。最も親しき知友の一人はエンゲルスであり、他はブルードンであつた。これらの人達と議論を戦はして社會主義者としての素養を積んだ。そしてパリーから自國のプロシヤ政府を攻撃した。當時のフランスのギゾー内閣はプロシヤ政府の意思を迎えて遂にマルクスを國外に放逐したのである。

パリーを追はれたマルクスは一八四四年ベルギーの首府ブラッセルスに行つた。そしてここで彼はプロシヤの國籍を抜けた。そこで死ぬる日まで祖國をもたぬ氣の毒な人となつた。マルクスが後に第一インタナショナルを創設したのはこの點を考慮するとよく理解される。第一インタナショナルは畧して第一インタとも稱し、國際共產黨のことである。眼中國境なく、世界各國のすべての労働者が手を握り合つて、現在の産業組織から自らを解放せんとするものである。さてマルクスは此處で有名な著書をかいた。それはブルードンの「貧困の哲學」を反駁したもので、ひつくり返しの表題を有つた「哲學の貧困」なる本である。次に彼は共產黨同盟なる思想團體の一員となつたが、此一員として活動する中「凡そ革命といふものは労働者のみで出来る。獨り無産者のみが階級支配を打ち壊はすことが出来る」といふ確信を得たのである。

ここでもマルクスは經濟學の研究を續けて怠らず、更に一八四八年二月、親友エンゲルスと共に「共產黨宣言」なる書物を書いた。この一八四八年二月はフランス革命の爆發直前である。即ちフランス革命は同月二十二日に勃發したのである。この書物はマルクスの思想を理解するにはどうしても捨てられぬ本である。どんなことが書いてあるかと見ると階級闘争を説いてをる。資本家と労働者といふ敵對階級の争闘を叙してゐるのである。そして本書は極めて煽動性たつぷりにかかれてある。故にこの書が出て以來、どれだけの共產主義者が深い刺戟を受けたことか、實に測り知れぬものがある。殊に文末にある十個のスローガンである。スローガンとは譯すれば綱領となる。即ち共產黨宣言綱領が十ヶ條あつて、これは特に注意を惹く文字である。このスローガンによつて世界中の幾多の社會主義運動が社會運動の方針をここに學んだ



のである。かの赤露の過激も、我國の第一次、第二次共産黨事件も之によつてゐる點が多々ある。

進んでフランス革命勃發するや、ベルギー政府はプロシヤ政府の依頼に従つて、マルクスを放逐した。實にマルクスの生涯は放逐また放逐の歴史である。彼は再度パリに逃れて三ヶ月間といふものは革命の動亂に沈潜したのである。マルクスはかくて革命の體驗者でもある。それに續いて彼はプロシヤに歸り二、三の有志と新ライン新聞を起して、相變らず當時の政府を論難攻撃した。遂に政府の脱む所となり、新ライン新聞は廢刊となり、關係者は國外に放逐されてしまつた。そこでマルクスは三度パリに逃れて暫く落ちついたが、またやフランス政府に放逐され、翌一八四九年ロンドンに行つた。そして彼は死ぬ時まで英國に止つたのである。

當時のロンドンに單に英國の首都たるのみならず、世界の首都と言つてもよかつた。世界の政治、經濟、商業を一望の下に見降ろす摩天樓とも言ひ得たのである。マルクスの智見はロンドンにあつて大いに擴大された。ロンドンに於ける生活は二通りになる。一は實際の社會運動家としての生活、他は學問研究文筆を友とせる生活である。そして著述に従ひ、新聞、雜誌にも投書したが、この頃殊にアメリカのニューヨークの新聞「ニューヨーク・トリビューン」に投書したのでアメリカにも共鳴者を得た。マルクスはこの頃、一八五九年に、有名なる「經濟學批判」を著した。實に後の「資本論」の魁をなすものである。

一八六四年は彼にとつて劃期的な事件の年である。第一インターナショナルの組織がそれである。今それが組織されるに至つた経緯について見ると、丁度この時ロンドンに萬國博覽會が開かれて、英國は勿論のこと、佛蘭西、獨逸、米國あたりの勞働者が見物のためにやつて來た。その中には相當多數の共産主義者がゐた。そこで之を好機として同志相會して目的遂行のための協議をすることになつた。實に再びない好機であつたのである。セント・マルチンス・ホールで實際運動の方針が議せられた。時にマルクスは創立宣言書と規約とを書いた。議長はイギリスのビースリーで、協議は終つて會は成立した。一八六八年マルクスの不朽の名著「資本論」第一卷は公にされた。この書は出版當時は左程の共鳴者を見出さなかつた。原書はドイツ語であるが少數の人のみが讀んだ。英譯はこれから二十年後の一八八八年に出版された。ヘー

ゲルの著書に於ける如く、マルクスの主著も出版當時は多くの人には殆んど知られなかつた。マルクスの案では資本論は第四卷までの筈であつたが、惜しくも第一卷のみにして彼は没した。二卷、三卷はエンゲルスが整理して公にした。誠によき友人は有つべきものである。エンゲルスは陰になり、陽になり彼を助けたのである。第四卷は影も形もなかつた。

晩年のマルクスは、勉強と實際運動に携り過勞と貧困と病氣に苦しめられたのである。時にはドイツの、或はフランスの溫泉場に行つたけれども病狀捗々しからず、一八八二年來病める肺炎に悩みつゝ一八八三年三月十四日ロンドンに没したのである。

思想關係者と病氣とは心然的關係があるのではないが、さうかと言つて全く無關係であるのではない。マルクスも亦肺で斃れたのである。エンゲルスは友情に厚く、貧しいマルクスに對し毎年三百五十封度宛を給與してゐた。彼等兩人の仲が如何に親しかりしかを知ることができる。マルクスはロンドン郊外のハイゲートの墓地に葬られてゐるが、勞農革命後、モスコに移轉する計畫のあつたこともあるが、結局實現せずして止んでゐる。マルクスの悲報が一度傳はるや、全世界中で彼のために悲しむものが甚だ多かつた。その中でも殊にアメリカである。ニューヨーク・その他の大都市では嚴かな追悼會が営まれた。以上マルクスの履歴を終るに際し、彼の家族及び彼の性格に一言及んでをきたいと思ふ。

マルクスは一八四二年にプロシヤ内務大臣の令嬢たるエンニー・フォン・ウエストフアーレンと結婚したのである。エンニーは美貌の持ち主であり、マルクスの幼な友達であつた。そしてマルクス終生の好伴侶であり、又善き忠告者であつた。彼女は一八八一年にこの世を去つた。之でマルクスは甚しく力を落したのである。彼等の間に男二人、女二人、都合四人の子供があつた。女は二人ともフランスの社會主義者に嫁いだ。男の子の一人は年幼にして死んだ。家庭的に見ればマルクスは恵れてゐた方である。

彼の性格についてであるが、すべての偉人に於て然る如く、マルクスに就いても毀譽、褒貶相半ばして居る。一般に認容されてゐる彼の兩面を各數えて見ると、よき側としては眞面目であること、正直であること、勤勉であること、勇氣に富んでゐること等が挙げられる。一ケの紳士たる資格を供へた人たることは之を斷定し得ると思ふ。暗い側としては専制



的で卓越を愛し人に拔んずることを好むこと。激しくして人に許さない所がある。革命家としての性格をこの邊りに見ることが出来る。進んでは人を憎むことがある。情熱に走ることもある。偏見に捕はれるといふこともある。學者よりも闘士と見てよろしい。思想家よりむしろ煽動家と見たい。要するにマルクスの欠點は破壊にのみ急であつて、建設に就いて考へ及ばぬといふことに歸せられる。これらの事は誠に惜むべき欠點である。

### ◇マルクスの思想

マルクスの思想體系は甚だ複雑せるものであるから、すべてにわたつて之を討究することはこの場合到底不可能なるが故に、主だつた點だけを述べて見よう。

#### (イ) 唯物辯證法

マルクスを理解するにはこの唯物辯證法を理解することが絶対に必要である。辯證法とは初、二千四百年前ギリシヤに起つた辯論術の一である。その方法は甲と乙とが或る題目に就いて辯論を戦はすとき、甲が乙の論理上の誤を指摘して、相手の斷定なり、論證若しくは證明なりを覆して相手の議論を壊す方法である。この中に自づから、兩人共に許諾する真理に打ツ衝かる。そして兩人が一段と高い智識を得る様になる。これがギリシヤの辯證法の意味する所である。

この辯證法を哲學的により深化し、つくりあげたのがヘーゲルである。序乍らアリストテレスによるとギリシヤ辯證法の創立者はゼノーンと言つてゐる。この辯論術の一としてギリシヤの辯證法を正確に哲學の方法として完成したのは、近代哲學者のヘーゲルである。

ヘーゲルの辯證法では、世界の本體をロゴスと稱する。ロゴスとは論理的理念とも譯すべき言であつて、論理的に自己を開展し行理念である。ヘーゲルは之を神聖なる思想と呼んでゐる。この神聖なる思想は自らの中に自らと反對の思想を生む。そこで二つの思想が相戦ふ。その時、己のロゴスそのものを正(テーゼ)と呼び、正の中にあつて己に反對のものを反(アンテイ・テーゼ)と呼ぶ。正と反とが暫く戦ひ、戦つて遂に一段と高い、そして正と反とを包含する思想に發展す

る。之を合(ジンテーゼ)と呼ぶ。合の中に正、反が包含されると言つても、正、反は決して滅びずして残つて居る。そして他日に於て働く力として合の中に納まる。之を即ち合の中の正と反とを止揚的動因とヘーゲルはいつたのである。止揚とは獨逸語「アウフ・ヘーベン」の譯語にして「アウフ・ヘーベン」には止るといふ意味と、引き上げるといふ意味と二つある。正と反とは合の中に止り、且つ合の中に引き上げられて居るのである。動因は「モメント」といふ獨逸語の譯語で前をうけて後を起す力即ち承前起後の力である。この故に、この止揚的動因の故に、合は第二の正として己の中に反を生じ、第二の合に「アウフ・ヘーベン」されるのである。かくして正、反、合の形式は擴大的に何處までも繰り返される。この發展形式をロゴスの辯證法的開展形式とヘーゲルは言つてゐる。即ち、世界の根本原理の自己發展の形式なのである。マルクスが、その修學時代ヘーゲル哲學を特に深く愛好したといふのは、彼は實にこのヘーゲルの辯證法に強く心を牽かれたのである。

ところが、マルクスの思想上の恩人はヘーゲルに止らず、今一人ある。それは「ルードウィヒ・フオイエルバツハ」である。マルクスが若くしてベルリンにあつた時、ヘーゲルは既に死して、彼はその講義を聴くことが出来なかつた。然るに、フオイエルバツハはマルクスの先輩であつて自らヘーゲルの講義に列してゐたヘーゲル學徒であつた。ところが、當時このヘーゲル哲學が分裂して、右黨と左黨とになつて争つて居つた。これはどうしてか。ヘーゲル哲學はドイツの唯心哲學、若しくは唯心論の發達の頂上に達したものである。この唯心哲學を簡単に説明すると、世界の本體は心であるといふのである。たとへそれを如何なる名稱で呼ばうとも、とにかく無形の心が世界の本體であつて、これが種々に現はれて森羅万象となる。一言にして言へば、唯心論は心で物を説く哲學である。そしてヘーゲルは實にその頂點に位するものである。この唯心論は、神、世界の本體、絶對者、理想と説くには適してゐる。即ち精神的なるものの説明は之をよくなすことが出来る。だが、この哲學の短所は、漂渺たる世界に遊んで、足下に横はる現實を見失つて終ふ。これが唯心論の弊である。

ヘーゲル學徒は、ヘーゲル哲學では現實がよく説けぬといふ點で左右に分裂した。ヘーゲル哲學は、その反對者より觀



念の遊戯と言はれた。これはたしかに當つてゐる。右黨と左黨に分れたのも、實にこの觀念的である點に發するのである。右黨はヘーゲル哲學の正統を守り、唯心論を擁護したに對し、左黨はヘーゲル哲學に叛旗を翻したのである。そして唯心論の反對側に立つて實在論に進んだのである。序ながら、右黨と左黨の言葉の説明を加へてみると、右黨とは、獨逸議會では座席の右方を占める政府黨を指し、反對派、急進派は座席の左方に就くので之を左黨と言つたのがその起源である。日本では右傾、左傾などといつて、日本主義、即ち健實な主義を右傾と言ひ、マルクス主義をその他過激なるものを左傾と呼んで居る。

さて、フオイエルバッハはヘーゲル没後に於けるヘーゲル哲學分裂の以上の如き狀勢にあつて、實に左黨の大立物であつた。彼は極端なる唯物論を唱えたのである。唯物論は正しく唯心論を丁度うらはらをなすもので、世界の本體は長さ、中等々の形を具へた物であるといふのである。その千變萬化したのが世界である。心とは何か。心は物の現象であり作用である。一言にして言へば、唯物論は物で心を説く哲學である。しかもフオイエルバッハは、ヘーゲルの極端な唯心論に對して、極端なる唯物論を唱えた。彼はこんな議論をした。曰く「思惟は現實より生ずるも、現實は思惟より生ぜず」とこれがフオイエルバッハ哲學の神髓である。この意味は、現實といふものが先づ存在する。そして現實が先在してゐてこそ始めてそれについて考へることが出来る。故に思惟は現實より生ずるといふのである。更に進んで、彼は曰ふ。「この世界に於て眞の存在を保つのは、人と自然に限る。神、絶對者、ヘーゲルの理念は人間の宗教的想像にすぎぬ。幻想である。」また曰く

「神は私の最初思想であつた。理智は私の第二の思想であつた。人は私の第三の、而して最後の思想である」と。  
この意味するところは、自分は初め、神の存在を信じた。だが神の存在するのが解るのは理智があるからである。かくして第二に理智を信じたが、理智を所有するものは誰か。人間である。人間こそ眞の存在であるといふのである。然らば人間とは何か。フオイエルバッハが人間を如何に説明してゐるか「人間とは物を喰ふ所のものである。」實に彼は極端なる唯物論、無神論者であつた。彼の許容する本當の人とは、物質人である。

マルクスはヘーゲルを愛好したが、彼のベルリン勉學時代は丁度、フオイエルバッハの全盛時代であつた。青年マルクスは滔々としてフオイエルバッハの説に共鳴して、唯物論者となつた。彼は此處で、辯證法を唯物論的に立て直したのである。ヘーゲルは哲學の方で、彼の哲學の神髓を物語る言を残して居る。「合理的なるものは、現實的である。現實的なものは合理的である」。

この意味は、一切萬物はすべてロゴスの自己開展の跡方である。論理的理念の自己開展の姿たるものが現實である。ロゴスは合理的にラショナルに自己開展をする。かくしてまた、目前に現實するものは、ロゴスの自己開展なるが故に合理的である。

マルクスは之を唯物的に改造した。「合理的なるものは現實的でなく、現實的なものは合理的でなく、物質的なものが現實的であり、現實的なものが物質的なものである」。そこで唯心的辯證法は改造されて唯物的辯證法となる。之がフオイエルバッハの「思惟は現實より生ずるが、現實は思惟より生ぜず」と、の思想と一致するものである。これが唯物辯證法である。

マルクスはこの唯物辯證法といふ武器を以て、道徳的共產主義者の救はんとして救ひ得ざりし社會を觀察したのである。すると、社會の一方には、ブルジョア、即ち有産者あり、之に對抗して他方に無産者がある。これ正と反とであつて、その間の争は今や酣である。この正と反と、有産者と無産者とは、調和されてより高い合となる。この合こそは共產社會を意味するものである。マルクスはかくの如く唯物辯證法を驅使して、共產社會の到來を認めたのである。

#### (ロ) 唯物史觀

マルクスの思想系統が道徳的共產主義者のそれに比して、何處となくドツシリした感を與へるのは、その基礎として唯物辯證法と唯物史觀とを有つてゐるからである。その是非は、とにかくとして道徳的共產主義に比して堅固である。

この唯物史觀は人生の考へ方である。唯物辯證法は人生の觀方であり、唯物史觀は考へ方である。これを要約すると、



唯物史觀は「唯物論の立場に立つて、人類の歴史的發展を眺めて、それには經濟事情といふものが重きをなしてゐるものである」と斷定するものの考へ方である。マルクスが唯物論の立場に立つて、といふのは、彼がフオイエルバツハの唯物論に共鳴して唯物論者となり、唯物的辯證法を作つたことから當然のことである。次にマルクスは單に現實のみならず、現實の歴史的過程を見ねばならぬといふのである。これは「歴史には哲理がある。歴史哲學は可能だ」といへる。マルクスの師、ヘーゲルの深き影響を受けてゐる點である。か様に歴史的過程を見ると、經濟事情、即ち衣食住に關するものが最も強い要因として働いてゐると言ふのである。これが唯物史觀の要領である。

マルクスの著書に於て、唯物史觀を秩序整然と述べてゐる處は一個所もない。唯それに畧々近いと思はれるのは「經濟學批判」の序文である。引用すると、

「物質的生活の生産方法は、生活の社會的、政治的及び精神的過程の一般性を規定する。」ヘーゲルも亦然りであるが、マルクスの文章は甚だ難解である。餘談ながら共產黨事件關係者にして、マルクスの原書は實にむづかしい。こんなに難しいことを言ふからには偉いに違ひないと思つて研究するうちにマルクス主義者になつて了つたといふものがあつたさうである。近時マルクス主義の流行は青年を風靡して居るが、彼等の中、果して何人がマルクスを解するや、疑問なきを得ない。マルクスを本當に理解するには紹介本では駄目である。

さて、物質的生活とは、衣食住に關する生活のことであつて、衣食住を得ること、衣食住を使用することはみなこの中に包含されてゐる。この物質的生活を誰が、またどうしてつくるか、これが物質的生活の生産方法である。生活の社會的過程とは、簡單なる社會より複雑なる社會へと推移する道行である。政治的過程とは、專制政治より共和政治への推移を指し、精神的過程とは太古の素野な、物質的な方から近時の文化的な精神文明の建設へと變つて來たことを意味してゐる。これらの社會的、政治的及び精神的過程の細い所は暫らく措いて問はず、これらの一般性は前の物質生活の生産方法によつて規定されるといふのである。暫らく文字そのものを離れて考へて見ると、吾々人間の精神生活は物質生活によつて支配されるといふのである。マルクスは歴史を好んだので、歴史上の事實によつて之を證明して行つてゐる。

古代にあつてはギリシヤをとる。マルクスに従へば、ギリシヤの社會は自由民、奴隸の二よりなるのである。奴隸は自由民の下に牛馬に等しい境遇の下に働いたのである。ここで、奴隸は自由民の衣食住を拵へる。従つて自由民は衣食住に就いて何等の顧慮なく、學問に、政治に、藝術にその全努力を投げ與へて、かのギリシヤの麗はしい文化を築いて之を樂しむことが出來た。即ち、ギリシヤの社會には奴隸があつたからこそ、そして奴隸が自由民の衣食住を給與したからこそ自由民は文化創造の尊い仕事に従事し、且つ之を樂しむことが出來た。かくの如くにマルクスは説くのである。マルクス以前に幾多の歴史家があつたが、ギリシヤの歴史をこの様に説いたものはない。ギリシヤのかの燦然たる文化と奴隸との關係をつけたのはマルクスを始とする。マルクスは何處までも社會的に弱い人の味方をして、社會的強者を抑へる思想家である。

次に中世に於ては封建政治が行はれて居つて、大名即ち諸侯があつた。更にクリスト教が國教として認められて以來、僧侶がまた封建社會の要素となつた。農業専門の農奴、この諸侯、僧侶、農奴、この三者が封建社會の構成要素であつたとして第三番目の農奴が諸侯及び僧侶の衣食住を生産した。そこで、諸侯は政治に、僧侶は宗教に各々その力を用ひ得て何等衣食住に就いては配慮する必要が存在しなかつた。實に諸侯、僧侶がその任務を完うし得たのは農奴の賜物である。農奴とは何であるかといへば、これは農業専門の奴隸であつて、奴隸よりは少し自由である。主人の家族生活にも入ることが出來たのである。

最後に近世であるが、近世は資本家と労働者より成立してゐる。そして労働者が資本家の衣食住をつくるからこそ、資本家は富を積むことも出來るし、政治に口をきいたり、社會に對して幅を利かすことも出來るのである。資本家の精神生活も亦労働者の存在するによりて可能である。

マルクスはかく説明してゐる。唯物史觀に従つて、古代、中世、近世を以上の如く理解するのである。 — (完) —





# 東郷氏の祖先は相模より出づ

——高座郡と薩州薩摩の歴史的關係——

鎌倉郡 東郷 吉太郎

豫備海軍中將東郷吉太郎閣下は、東郷元師の令姪である。今、東郷家の遠祖が本縣澁谷庄に縁起を有せるを發見せられしは、蓋近年の事ならんと思ふ。而も此事が吾が縣民をして元師に對し一層近親に崇敬に誇負の念をも深め且つ増さしめる事であり。殊に各々も亦先人の系譜を有するものなるに、その家門の盛衰、多岐なる變遷、概ね得て知るべきにあらず、幸にこの代表的好資料を得て之を教壇に上さば智育總育歴史教育の上に益する所甚大なるべきを信ず、閣下の寄稿に對し愼んで謝意を表する次第である。

相州高座タカサの郡は現今高座コウザと音讀す。往昔同郡の北大半部は澁谷の庄にして西南部に一宮庄あり、南方海岸一帯の地は大庭の庄なり。

現今の地圖を按するに、六會、圓行、用田、宮原以北の高座郡は即ち澁谷庄にして今の綾瀬村は其樞要地なり、其内に落合、早川、吉岡等の地、部落として猶ほ其地名を存す。

相模風土記に曰く。澁谷合村六十六、平三太夫重家の子重國、應保の頃（同元年は一八二一年）既に此所に庄司たりしと見ゆ、即ち今より七百七十年前なり。今重家の系譜を討ぬるに左の如し。

桓武天皇——葛原親王——高見王——高望——良文（村岡五郎と稱す）——忠頼（秩父武藤權守）——將常（秩父武藤權守）——武基（秩父冠者）

武綱——基家（小机六郎）——重家（川崎平三太夫）——重國（澁谷庄司）

重國の長子を吉岡太郎光重と稱し、次男高重を澁谷金玉丸と稱す。建保元年五月和田義盛の亂に與みし誅戮せらる。長後附近の石碑に依れば同地の天満宮所在地は其の居館の遺趾なりと、又早川の傳説に依れば其遺骸は祖師谷の菩提所に葬り其塔ありしも今存在せず。

三男時國を小馬三郎、四男重助を石川四郎、五男重近を飯田五郎と稱す、皆附近所在の地名を名乗りたるが如し。

光重の長子を澁谷太郎重直と稱し、父の箕裘を繼ぎ早川に在城す。次男實重を早川次郎、三男重保を吉岡三郎或は遠馬三郎、四男重茂（諸）を大谷四郎、五男定心坊を會司五郎、五男重貞を落合六郎と稱せり。各々高座郡庄内の地名を名乗り。

## 二、

光重承久三年の亂に北條泰時に從ひ戰功あり。依て薩州薩摩郡の五ヶ郷を賞賜せられたり。實重兄弟五人は寶治二年の春、薩州に下向し早川次郎實重は川内川の上城東郷即ち斧淵、海田、白濱、山田、烏丸、穴野、藤川、中郷の九村を領し姓名を東郷次郎と改む。是れ東郷一族の始祖なり。三男吉岡三郎重保は祁答院の七ヶ村を領し、祁答院三郎と稱し、四男大谷四郎は鶴田の四ヶ村を領し鶴田四郎と稱し、五男會司五郎定心坊は入來院の二ヶ村を領し、入來院五郎と稱し、六男落合六郎は高城（昔時は一郡なりしか）の五ヶ村を領し、高城六郎と稱せり。

而して兄弟五人の一族薩摩郡に幡據し、澁谷黨と稱し、雄を北薩に振ひしが三百十餘年の後ち島津貴久公に歸服し、領土を獻して島津家に降れり。之れより一族郎黨多くは入來院家に隸屬し其他は皆分散して薩隅日の間に居住せり。後世澁谷東郷の一族分派の系統概ね左の如し。

東郷の一族 東郷、澁谷、炭浦、瀬戸口、烏丸、白尾川、野久尾、二渡、糠毛田、河原、穴野、白濱、石坂、下水流  
祁答院一族 祁答院、久留木、蘭牟田、大村、赤坂、船木。  
鶴田一族 鶴田



入来院一族 入来院、清敷、岡元、村尾、山口、下村、寺尾、添田。  
高城一族 高城、本村、關口、鶴谷。  
以上三十有餘の族姓を冒す。家系皆澁谷庄司重國の系統にして子孫の繁榮亦盛なりと云ふべし。

## 三、

翻て之を相州高座郡の舊地を検討するに、元久二年澁谷の一族畠山重忠は罪なくして其の子重保と共に北條義時の爲めに殺され、尋て寶治元年、北條時頼其の外祖父安達景盛の爲めに三浦泰村の一族を滅せるが如き源家三代の功臣にして北條氏にあらざる者は相踵きて誅滅せられ、就中光重の次弟澁谷金王丸は和田義盛の叛逆に與ひして誅伐せられたり。此際相州澁谷の一族たるもの枕を高ふして其堵に安んずる能はざるの状況にあり、其後光重父子承久の亂に戦功ありしかば薩州の五郷に封せられたり。然れども關東にありて遙かに薩摩の所領を支配するは不便少からざるを以て、光重は長子重直と共に早川に留まり、舊に依りて鎌倉に勤仕し、次男以下は薩州の封土に就きたる所以なり。然るに早川在城の光重、子重直及其子孫の事歴に至りては杳として討ぬるに由なく、又其の史的關係は關東に於て消滅し、其本木は枯れ果て、支芽の隆昌を觀るの感あり、即ち相州は蛻の殻となり澁谷一族が數百里を隔てたる邊陲の薩摩に根柢を根ざしたるを知らざるに至りしなるべし。

而して武藏にも澁谷あり。此の澁谷には澁谷金王丸を祭るの祠あり、是れ源重成等と共に源の義朝に従ひたる豎金王丸なり。(緣起書に僧昌俊なりと註す) 東郷一族の系統には東京市外の澁谷は何等の關係を有せざるが如し。又高座郡の吉岡に澁谷氏あり、是れ源姓系統の支族にして平姓の系統にあらず、相模風土記に澁谷平次郎(系圖に平司郎となり)と稱する先覺あり、是れ澁谷次郎左衛門の祖なりと、あれば是亦源姓なるべし。又早川の城山に就き石川四郎兵衛在城の事あり、先きに述べたる如く光重の弟に石川四郎重助と云へる人あり、四郎兵衛は重助の子孫なるや否や郷土史研究者の調査を請はんと欲する所なり。

## 四、

澁谷東郷の一族薩州の封土に就きし時、此處には在國司大前氏あり、優勢なる一大豪族にして新領主に反抗し争鬭止む時なし、五代重親は東郷一族子孫繁昌の爲め祈願を立て甲冑を裝ひ白馬に跨つて鎔底に入定する等の偉蹟あり、今猶ほ親大明神として東郷村に祭祀する神社あり、先之には三代重高弘安四年蒙古大軍入寇するや兵を率ひて筑前に向ひ、西州の諸侯と協力防戦し、一族入来院致重と共に戦死せり。時の將軍惟康親王之を賞し、正應元年筑前早良郡の内東吉光田地十町を賜ひたる事あり、其他南北朝の際には南朝に従ひ島津氏と戦ひ或は後年薩州に於ける島津忠良公貴久公の統一戦争に關する澁谷黨の反抗戦は枚擧するに遑なし事繁に亘るを以て之を省く。

## 五、

佐々木秀義清盛の事横を憤り、姨夫藤原秀衡に依らんと欲し、相模を過ぐるや、重國秀義の武勇を愛して之を留め長女を妻らせ義清を生めり、又秀義の次子綱高に次女を妻せり。而して義清は大庭景親の妹を娶れり。斯る關係の際に頼朝兵を擧げたるに依り、重國は實に立場に窮したり、然るに景親重國に命じ、佐々木の妻を捕へんとするや、重國理非を説て聽かず情味と義理を武士道を以て、分別履行したる事或は佐々木兄弟が石橋山に敗戦して澁谷の館を訪ひし時之を倉庫中に招き膳を進め懇に敗戦の狀を聞きたるが如き人間味タツプリの逸話等は世間周知の事なるを以て多くを贅せず。

却説秀義の後妻として重國の女を妻とし義清を生めり。秀義の四男に佐々木四郎高綱あり、今宇治川を説くの要もあらざるべし、高綱の子、光綱は義清の女と從兄妹同志の夫婦となり子泰綱を生めり。其子秋綱、乃木を名乗れり。是れ乃木家の祖先なり。即ち高綱の曾孫なり。(五は澁谷庄司重國と佐々木家關係)

## 〔附 記〕

相模風土記に依れば澁谷平次郎は澁谷次郎左衛門の祖にして、次郎左衛門は重國の末葉なるを記載しあるも、當家の系譜と稱するものを按ずるに源氏の系統なることを詳細に明記せり。郷土史研究者の調査を俟つ。





## 補習教育に就いて

文部省社會教育官 長野長廣氏講演

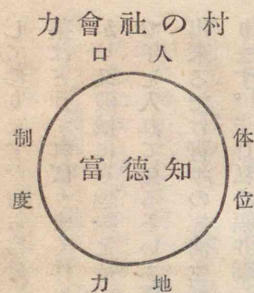
——補習教育研究協議會席上ニ於イテ——

本縣は小學校農業教育が非常に發展してゐることは兼ねてから、聞き及んで居るのでありますが、青年教育も亦旺なことだらうと思ひます。

此の研究會上では是非私に話をしろと云ふ縣からの望で、自分自らの體驗により又實例により、私の教育方針及思想的見地を述べて皆様の正當な御批評を願はうと思ふのであります。

最近教育界は世界的に一大颶風に遭遇してゐると彼のケルシェンシュタイナー博士は云つてゐるが、社會生活の上にも亦一大低氣壓が來てゐるのであります。即ち時代精神に大變化を來して居る。又經濟界變動の結果、青年の活動上重大な問題が起つてゐる。即ち失業者が續出してゐるのであります。此のために社會生活、國民生活の上に遺憾な點が多く、各方面の活動は行詰つて居るのであります。

最早現在では過去の教育方法を繼續して行くことは出来ない。現在、町村は明治初年に發布せられた教育令によつて教育してゐる。都會に於てもさうであります。此の古い教育方針によりて作り上げられた國民は如何に、教育の効果は如何といふに、私は過去の教育は計畫理論には優れてゐるが實行の上に多くの缺點があると思ふのであります。それはすべて眞の理想と相反してゐるのであります。例へば現在農村の疲弊である。農村は五十億圓の負債を持つてゐる。此の五十億圓は純農村の負債であります。又農民には堅實な能率を發揮する力に乏しい。方法組織や實際問題を運用する力が足りないのであります。又小學校教育に於いては各方面の活動により十四、五歳迄の間に打ち込んだ科學的訓練は、その後ブツリ切れて折角の骨折も自然消滅になつてゐるのであります。即補習學校には科學的施設



体 位

「村の社會力」を

(1) 外に向つて擴大しつゝある状態

力 地 (2) 内容充實の方面

この兩面について考へたい。

制 度

外への擴大力とは人口・體位

がない。農村青年には立派な修養機關がない。これが農村疲弊の一大原因をなしてゐるのであります。

將に我が日本の教育界は一大颶風の中にあるのではないからうか。中學校、高等女學校、實業學校の改善が叫ばれてゐるが、その要は實際生活に則せしめんとするに在る。それは又社會を組織する産業的知識、即ち社會を組織する要素に基づく教育が必要なのであります。

此の教育には農村をよく調査してその實狀を知り、その實相を捉へてこそ眞の教育が成立するのであります。調査に調査を重ねた熱ある調査の中にはウツ高き何物かゞ出来るそれによる教育こそ社會生活に基調を置く教育である。我村の經營はこゝに基礎を置くのだとせねばならぬ。我村の制度如何はこゝに顧みなければならぬのであります。

然らば郷土調査はどこに着眼するかと申しますと、私は

制度・地力であります。人口増加は直ちに小學校の擴張となり小學校費の増加となります。又フランスの如く人口の自然減少は社會力の減殺となります。變りつゝある村の制度は各自治體、即ち青年團・青訓・農會等の文化の表現であります。自治體の文化的發展は村の眞の力であります。地力については荒地開墾等の平面的利用と共に深耕等による立體的方面も考へねばなりません。内容充實の方面も知識・道德・富力の何れを缺いても我々の生活は脅かされるのであります。

此の内容充實の三要素が良く充實され、外に向つて擴大する四要素が發展して初めて其の村は彈力ある村になるのであります。で此の各要素を充分調査したならば村の産業發達の基調も見出し得るのであります。

次に實業補習學校の經營には工夫獨創の訓練が必要であると思ふ。それも村民生活の眞只中に於いて、家庭生活の中心に於いて、實際生活に適合する訓練をしなければならぬ。實際生活に適合せしむるには青年の心理をよく理解する必要がある。教師は己が過去を振返つて青年の心理に合致させることが肝要であると思ふのであります。

青年は小學校卒業の頃から段々と經濟的價值意識が發達



して参ります。自ら自分の仕事を工夫するやうになり、白菜はどうすればうまく作れるか、鶏は如何にして飼育するか、又機械にも趣味を持つもので自轉車が破損すると自分で手を入れて見るといふ様になつて來るのでありますから出來るだけ青年の經濟生活の内容を見てもいい度いのであります。先日私は福井縣三方郡八村に参りました。こゝは水田が多いのでありますが、濕田で二毛作が不可能であつた。又肥料は多くは金肥を用ひ經濟的にも面白くなかつたのであります。そこで専任教員は農會長、試験場長とも相談してレンゲを作る工夫をしたのであります。稻の花が咲き終つて將に充實せんとする時に二間置きに稻株を擧げて溝を作り排水を計つた。そして二週間位経つと足の跡も付かない位になつた所で播種したのであります。が初めの内はどうも發育が思はしくなかつたのですが、それに畑土を撒布した所が立派に成育して三年前からよい成績を示し昨年は廿町歩ばかり實施した相であります。誠に根瘤菌のある畑土を用ゐたのは青年の力であります。此の青年の力が大した困難もなく村を生かす原動力となつたのであります。本村は乙種農學校も經營して居るのであります。青年をして大なる力を發揮させるには一に村民の援助によるのであ

りまして金錢を度外視して行ふ所に最後の勝利は來るのであります。他がやつた後を見ればつまらないやうですが、この工夫創作は實に尊いものであります。コロンブスが卵を机の端にあてゝ立てたのも彼の工夫創作であります。又此の夏高知縣高岡郡のある畫間制補習學校を見に参りましたが、此の村には八十町歩の早魃田があります。之に谷川の水を電氣の力であげやうと考へたのは今より十五年前の青年現村長であります。早の年に附近の村では雨乞をやつてゐるのに此の村は樂に多大の收穫を擧げてゐるのであります。神奈川縣にも此の如き例は随分多からうと思ひます。青年をして家庭日常の事を工夫創作せしむるこそ、そして若しそれが良成績を擧げやうものなら、それこそ青年の眞の喜であり、青年をして益々その途に進ましむる所以のものでありますから努めてその訓練をしなければならぬのであります。

又朝早く起きて田畑に出て働くことを青年は非常に愉快に感ずるのであります。これは全く農業の三昧境に入つたものでこれが青年の心理であります。かやうにどんな青年でも經濟的に頭を向けやうとする心はあるのであります。又反面には青年の中には理窟をいひ、現實を厭ふ者もあり

ますから、その様なものは教師は愛を以て導いてやる必要があります。

次に青年期の傾向として社會的貢獻をなしたものを絶對崇拜するものでありますから、他町村の模範青年團、農會産業組合等を見學せしむることが工夫創作の大なる教育的手段となるのであります。

又物を理論的に解決しようとする傾がある。香川縣三豊郡笠田村の青年教育の特徴は青年をして實生活に即した研究をさせるに在るのであります。村の圖書館には農業の個々のことを詳しく調べるために單行本を備へてある、その購入額は年々三百圓に及ぶといふことであります。そして個性により趣味に基いて研究し、收支計算までしてそれを村民に發表して居ります。勿論それは科學的に見れば缺點もありませうが、産業上には多大の貢獻をしてゐるのであります。或る者に至つては二百圓を村から借りて養鶏の研究を初めその成績を發表してゐるとの事でありまして。

次に青年をして自らの體驗により精神文化を作らせるやうにしたならば必ずや幾人もの先生は必要はないと思ふ。青年の自發的な活動はその村に多大の貢獻をなすものである。教師が一人で足る事も經濟的に惠まれる事になる。二

十歳前後にもなれば相當の力のある青年はあることだから先生はその青年の養成に努めて、中堅青年を作る事が必要であります。

斯様に自律的にやる様に指導すれば青年は社會的に目覺めて來てすぐ部落の公會堂を建て度いと希望するやうになります。私がかつて關係してゐた村では各部残らず公會堂を持つて居ります。青年を導くのに部落單位が最もよいのであります。之が嚆矢として社會的意識の萌芽となるのであります。部落を單位として公民的職業的共同事業に男女手を携えて力を注いだならば非常によい結果を來すものであります。その代表的共同事業としては部落實習地を設ける事であります。茲では地主の子も小作人の子も同じ作業を同じやうに汗を流し、共に苦しみ共に樂しみ何の隔もなく一致共同で行ふ所に美しい價値を見出だすのであります。

青年には又美を愛する心情がある。之は私自身も初めは重く見てゐなかつたのでありますが、偉人烈士も皆幼少の間に豊かな詩趣を持つてゐたのであります。維新の大立物坂本龍馬先生等も十七、八歳の時已に詩に於いて和歌に於いて繪に於いて、相當の見識あり、藝術的教養があつた相で今日残つてゐるのでも専門家を凌ぐ程だといふことで



あります。

現在疲弊の極にある農村青年をして美の創造へ、美の發展へ念願させ之が基礎を與へてやることはまことに大切な事であります。農村の美とは何か。それは維新の志士の審美的傾向が新日本建設の原動力となつたやうに、今日の美的念願は新らしき田園文化の創造であり、田園生活の藝術化、人間生活の本來化である。宇宙自然の懷に飛び込んで人間生活に取入れることである。自然の土地を人間世界に向つて開拓し、或は竹材とし、果樹園にすることが農村の藝術である。それには鋏を持ち鋤を持つた姿こそ農村の美であつて、中折帽に肥桶を擔いだのにどこに美があるか。今日の農村には都會の氣分が入りすぎてゐる。自然の力と人間の勢力と一致させること、一毛作は二毛作に年に七、八回も利用することが美の創造である。大自然の力と人間の力と調和統一した所にこそ藝術的農村文化が生れるのであります。而して之が中心力となるのは青年であり、その青年を養成するのが補習學校の使命であります。

次は此の會でも問題になつて居る體育の奨励である。現代は十三、四歳までは小學校に於て至れり盡せりの體育的施設がある。看護婦まで置かれる傾向にある。然るに補習

の全的活動であります。

而して個人の活動は勤勞が根本であります。勤勞を欠いで立派な全人格など考へられません。勤勞なき生活は暗であります。勤勞を以て各人は社會に出現するのであります。農民として立派な身體、精神は農民の人格であります。ケルシエンシユタイナーは「勤勞は全人教育の門なり。而して全人教育の奥殿堂は勤勞なり」と、即ちこれが教育の大問題で、教育の改善はこゝにあるのであります。勤勞が全人格の初であり終りであります。又セネカ曰く「何のためにおれは勉強したのか」と之は現代世界の學校教育を受けた人の叫びであります。私には私たるべき處に生命がある。教育家然り政治家然り。農村に於いては土に親しましめることが教育の使命である。若し此の考を誤まつてゐたならば農村は亡ぶのであります。これには先づ校長が農業が出来なければ不可ない。農村の小學校長は農業教育の出来る人でなければならぬのであります。この事について私は嘗つてある學校に居る時縣當局者等十幾人を向に廻し議論したことがあります。私は農業教育、補習教育振興のため飽くまで獨りで頑張つて遂々夜三時までなりましたが自分の意見を通すことが出来ました。正當な理論は通るも

學校の成長力最も旺な青年に對しだけの設備があるか一度補習學校に入ると尋常一年の腰掛にかけさせられ體をかゝめてゐる。青年體育の叫ばれてゐる。今日これでよいのであらうか。教育者たり父兄たるものの考へてやらねばならぬ重大な問題であります。現代社會は生活に追はれて目が見えないのかも知れませんが、小學校の國庫補助金でさへ僅かに七、八千萬圓しか出ないのに國民の酒と煙草に費消する高は實に七、八億に上るのであります。この矛盾を第一改善しなければなりません。青年教育の必要を唱へるならば一の一番に補習學校の机と腰掛を作りなさい。村で出来なければ教師は一錢宛でも貯金して一脚の机、机が出来なければ腰掛でも買つてやる。一年に一脚宛作つても四十年には四十脚になる。さうして校長なり専任なりが補習教育の必要を説けば、村も専用教室でも作つてくれるでせう。滋賀縣のある村では二千二百五十圓といふ金を出して青年教育のためならばといふので銃を買つてやつて居るのであります。ほんとに青年の衛生を考へたならば村で一脚の机が出来ぬ筈はない。要は教師の熱と愛であります。教師はあふるゝが如き愛を以て教育しなければなりません。魂のしみ込む教育でなければなりません。教育は人間生活

のであります。今日その縣では農業教師から校長になつたものが五十何名居り、居坐りの農業教員を一舉二十七學級の大校長にした事もあります。村民も非常に喜んで信認も仲々厚いのであります。

現在の行詰つた農村には立派な人物を要する。之が養成機關たる農業補習學校の經營は村を擧げてこの任に當るべきであります。どうぞ皆様の偉大なる力により益々發展の途を開かれんことを切望して止まない次第であります。

(澁谷教之助、西村善作速記)

## 活 動

クレマンソー

獨立自由の國民に休息は無い、休息は亡國の觀念である。

活ける國民は活ける有機體と同じく、休息を知らぬ。



## 俳句

高座・明治  
高橋南柯

## 睡蓮の眼

睡蓮の眼ビヨコリ空見て黄昏  
竹の皮牛小屋に一つはぢけけり  
南天の眞白き花やハンモツク  
緑蔭に早苗籠三つ息づけり  
つゝみ春負ひ日傘を二人つれにけり  
老柏の青葉黙としてたそがれぬ  
芭蕉の實ほろ／＼落ちぬ雲の峯  
しばらくを本に侘はせし螢かな  
きらゝちらゝ睡蓮の夢月に揺れ  
土橋にて田植夕となりし月

## 雑詠

都筑・山内第一  
石原日の出

おぼろ夜を屋根に遊べるねずみ哉  
小波や流され勝ちな蛙の子  
棕櫚の花こぼれて雨の晴れにけり  
朝霧の苗代小田や芽の青む  
夕立に山路を走る小蟹かな  
短夜や雷をきゝつゝ明けにけり  
稻妻に夏の夜頃となりにけり  
湯浴してよく眠る吾子や月見草  
葉櫻をもるゝ陽光や朝茶汲む  
うす暗き假の校舎やさみだるゝ



## 生まらるべき讀方の新潮 (其の一)

國語本然の性態と藝術的朗讀

鎌倉郡大正校 尾 尻 隆 次

昔、京都に繪の非常に巧みな僧があつた。或時、繪畫に對する一片の智識すらない豪商人が、此の僧に竹の繪を畫いて呉れと頼んで來た。僧は朱を以て鮮かに一幅畫いて送つた。數日たつて、依頼した商人はやつて來て、

「あの竹は朱で畫いてありましたね。」と不平そうに云つたので僧は

「墨で畫いて呉れとでも云ふのかね。」と云つた。

「えゝ墨でない何んだか竹の様に思へませんで。」と答へた。

かうした昔話に、繪を透して實物を味ふ力のない商人らしさが思はれる。竹は竹だ、いかに表現の方法は異なつても、それが墨でも朱でも、我々はそれを通じて竹其のものゝ本然の姿を見、味はへばよいのだ。現今我が讀方本然の姿を如何にして味つてゐるか。

形式だ、やれ内容だ等云つてゐるが、それを知つて眞の姿に接し得られるだらうか。文から離れた内容、文から遠ざかつてゐる形式、それによつて進展止むことなき我が讀方科の生命をつかみ得るであらうか。

かうした悩みを懷き、かうした苦痛な境地にたつてこそ始めて讀方の本格的な指導がなし遂げられるのである。

内容論、形式論の行きづまつた今日私は苦しみの中に一條の光明を見出したのである。それは文字系統（心持と表現の融和）にのみ依頼せず、眞の姿に接する爲には讀みより始まつて朗讀に出なければならぬ。この一主義である。此の光りである。朗讀も藝術的朗讀に出づることである。

私は此の讀方教育の暗墨界に唯一點の光明として高く大膽に藝術的朗讀の主張をふりかざして進出せんとする。



### 形式方面の弊害

形式方面に主力を注ぐの弊は今更論を待たないであらう。漢字を覚え、假名を覚えるのみが眞の使命ではない。文字によつて表現された文を味ふべきだ。其の味ふ爲の一方方法であり手段である。目的ではない。であるから勿論輕すべきことではないがそれを目的としてはならぬ。

### 内容主義の弊害

文意は、文意はどうか等、何もわからぬ二、三年の兒童をつかまへて此んな難しい言葉を以て教授してゐるのをよく見受ける。

一體何故そんなに文意を強いるだらう。文と云ふものは如何な叙事文でも説明文でも皆夫々作者の心象が含まれてゐるものだ。心象が流れてゐるものである。その心象と言ふものはさう意的に確實に言ひ表はす事の出来るものでない。それは文にすら言ひ表はすことの出来ない心的作用で文を作らんとする時に働いてゐるものである。

一文を幾度か讀んで而もそれを六感に感ずる以外、口に發表出來得ないのである。まして讀むことの出來得ない兒童に確實なる文として文意の發表の出來得る理由はないの

である。たゞ文意を取らんが爲に教師があせりすぎ形式をおろそかにする爲に其の反動として又昔の形式主義が起つて來たのである。

又一方形式内容の中庸説を説へてゐるものがある。而して此の形式、内容何れもおろそかにすべきものではない。而し此のみが眞の讀方の使命でもない。宙に迷つた説である。

車には兩輪と車體とがある。内容と形式は此の車で云へば兩輪の如きもの、鳥に例へれば兩翼の如きものである。而して考へて見よ。鳥は翼のみで飛び得るか、車は兩輪のみで目的を達し得るか、鳥には體あり、車には車體あり、鳥に其の特有の體あつて兩翼の運動を命じ、其運動によりて自己の進むべき道に自分自身で到着して行くではないか。讀方に於ても同様形式内容を充分にあやつて行くものは讀みである。そして行くべき道に進んで味ふことも出來得るものも讀みである。鳥の體の様なものだ原動力を授けそして收穫し得るものである。讀みこそは、内容も讀みに始まつて讀みに歸るのである。この後者の讀みこそ藝術的朗讀なのである。以上述べたる他に藝術的朗讀が究極の目的であることを述べる。

### 藝術的朗讀主張點

#### 一、方言矯正

思想統一上 國家發展策  
國家統治上

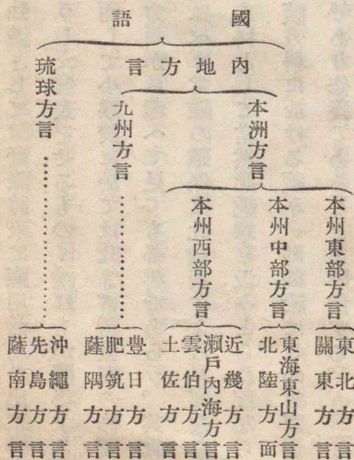
文學興隆上

正しき言葉。正しき發音をモットーとす。元來日本は小國なれど六十餘州に分れ封建制度地勢の關係上、方言が各地に發展して、同民族でありながら思想の交換に甚だ不便をきたしてゐた。それが爲各地其の土地を固着して外に向上發展の氣慨なく思想上文學上大なる損害を受けてゐるのである。

今日思想國難等言ふも國語の不徹底から來るものが一大原因をなしてゐるものである。國語は神代からの民族精神表徴である。大和魂の結晶である。其れ故この國語を徹底せしむる爲には先づ兒童の時から健實に國語をおしへこまねばならぬ。國語の一科をなせる讀方の使命もそこにあると信ずる。先づ方言を矯正し正しき言葉とし正しき思想を注がねばならぬ。

昔から「國語なき國は亡國なり」と云つてゐる。國の使用緩漫なる國は衰亡を意味する。國語の盛衰は國家の盛衰

に大なる關係ありと斷言出來ます。現在新領土朝鮮を御覽なさい。政府が如何に國語教育に留意してゐるかを、それも國家統治上、かうして朝鮮語は日々になされて行くと云ふちややありませんか。かうして朝鮮語の滅び行くと云ふことは、やがては朝鮮古來からの精神が滅し日本の精神と入れかはる時が來ることなんです。朝鮮語を方言と見るのはすこし誤まつてゐるかも知れませんが。而らば日本在來の方言は如何なる地方によつて發達してゐるか、極めて大體の分け方を左表をかりて表はして見ませう。(東條操氏の説表)



かうした多くの方言は先づ讀方によりてのみ矯正されべきものであります。



## 二、言語發表の修養

先づ吾人が言語を發せんとするや過去の種々なる素材を心に描き出すことであらう。即ち思索の概念が起つて來ることであらう。

## 思索より文章、文章より言語發表

此の三階段は誰れも起る心的現象である。それが知覺されたとされざるとに關係せず、かうした階段の中に於て最も容易なるものは思惟である。而し色々な素材をまとめて一文章とするのはやゝ困難なり。更に困難なるは文を言語に發表することなり。

此處に我等の修養すべき點を見出すのである。例へば吾が眺めた月を吾の月として如何に表現せばよからん。自分の見た月そのまゝを人々に知らしめるには、其の表現に苦心をなすことは誰れもが経験する事であらう。

かうした苦心の末出來得た文章、たとへそれが主知的でも主情的でも、この文を通して作者の發表せんとする心象を讀破せねばならぬ。この讀破した音聲に其の感情を現はして發表せんとする機關は如何に重大なるものであるかは推し量る事が出來得ない。或ひは音聲上、或ひは文章上、(形式方面)或ひは創作上、或ひは趣味上、或ひは社會的知

識上、一々例をあげつくせぬのである。最も強くは文章の中に流動し躍躍せる思想を自己のものとし、自己の思想とし知識として、實際將來に應用活用の出來得ることは一度かうした發表をせるものゝ誰れもが體得する感じであらう。而して小學校に於ては此等言語發表の修養も實利的功利的方面から考へて見ても必要であらう。其處で國民として備ふべき常識の確保は此發表によらねばならぬ。それには讀方科として當然此趣意を汲みとらねばならぬ者である。

讀方科に於ける讀み、即朗讀はこの言語發表の唯一の方法であり修養であることを確信する。

朱熹の語に「讀書三到」と云ふ事がある。眼に至り口に至り心に至るの三事、即ち眼で見、口で讀み心に會得する事である。我々の考ふべきは心に會得せることをもう一度口にて讀む、語を換へて言ふならば言葉で發表したならば確實に會得し得るのみならず、世の批判を仰ぐことによつていよいよ確實に會得せられるのである。其處で小學校讀方に於ても形式をみ、内容を見た後會得せられた心象を以て一文を朗讀したならば如何程其の讀方の功率をあげるか知り得ないのである。即ちこの朗讀は最も精神を打ち込んだものであるから藝術的朗讀でなければならぬ。その文の

主智と主情とにかゝらず、後ほど藝術的朗讀の藝術とは如何なる意味をこゝでは有するか説明したいと思ふ。

## 三、讀書百篇義自見

よく昔から讀書百篇意自通と云つたがこれは朱熹の語、讀書百篇義自見が變つて口傳されたものであらう。

讀みの萬能主義は早やくも朱熹によつて説かれた。おそらく難解な文でも百回も繰返し／＼讀んだら自然意味は通ずる事であらう。私はまだ悲しいことに一本を百回も讀み續けた事はないけれども幾回も讀んでゐる中に自然と内容がわかつて來る。勿論形式がわからなければその讀みは出來ないが、今私は兒童にかう云ふ風にして多讀熟讀主義をさせてゐる。

素讀五回、通讀五回、精讀(講讀細讀熟讀精讀)五回、耽讀(味讀)五回、朗讀、五回

但し耽讀と朗讀とは交互に循環的に讀ませ最後に一回藝術的朗讀をしてみなさい。と豫習の時に云ひわたしてある合計一課の豫習の讀みが廿六回、而しこの廿六回は最底制度である。かうして讀書百篇主義をとつてゐる。

かうした結果現今相當な成績をおさめつゝある讀より入る讀みに入る。

## 四、國語讀本とは何か

文を一讀して直ぐに何が書いてあつたか、文意は何かと云ふ事は我々の日常生活に必要なことである。讀んで行く内に自然と心に感ずる、それが最も大切な事だ。文其のものゝ中に作者が生きてゐる心持が流れてゐる見え隠れてゐる、それを讀めばよいのである。或人がこんな事を言つた或時の授業參觀に「ハナ」といふ字について此の文意は何か……。日本の國花の表徴だ等云つてゐたと、一體この二字の中に何が含まれてゐる。櫻花が挿繪として入つてゐるからさう見えるのだらう。此んな單語の中にそんな深い意味が含まれてゐるものではない。どんな花であるかしかない極端に云へばそこに捨てゝある泥まみれの花かもしれない。而しまたしをれた花かもしれない。かう理屈をつければどうにでも理屈はつく。こんな語に文意は等云ふのは一種の理屈である。文意は理屈ぢやあるまい。而し兎角そう云ふ風にこぢつたくなるものだ。

この「ハナ」の二字の目的はハナと正しく書け正しく讀めることが目的だらう。こゝで花と正しく朗らかに讀めることが必要だ。それが朗讀だ。さう讀んで行く内に自然日本のも最も美しい花、魂の表象國花と云ふことが言葉には



云へなくともわかつて来る。それでいいのだ。

高學年になれば實業的教材、歴史的、理科的、地理的、修身的、國民的等の教材が種々入り混じつてゐる。其等教材は其れぞれ特種の目的であるがこれをも一概に文意をとのみ思ふのは如何に？。實業的教材は實業科で、修身的教材は修身科で、歴史的教材は歴史科で夫々其の使命を確實にはたして行けばよいのだ。各分科がそれが爲めに設けてあり其の使命の爲に働いてゐる生きて居るのである。讀方科の使命は本文を離れては讀方科として意味をなさなくなる考ふべき點はそこである。そこに讀方の本質を忘れてはならぬ。小學校は國民として世に立つ下準備だ。國語科讀方の本質を知らせておかねばならぬ。讀方科は讀方としての使命をはたして他日の基礎を作り上げなければならぬのである。飽くまで讀みから離れた讀方であつてはならない。

### 五、文學研究心の養成

美しく讀んでゐる時我々は知らず／＼其の作品の自己を讀みたくなるのである。即ち作が自己か、自己が作か、融無と、とけあつた處に自己ありて自己なく、作ありて作なき境地に立つて讀む時如何に聽者を感動せしめるかは誰もが覺えることであらう。

聽者即讀者、讀者即作者、作者即文

かうした境地にある時、文の有限無限に絶大なそして偉大なる事を感じるであらう。文を鑑賞し又創作せんとするの感じや湧然として起きる事であらう。實に吾人に及ぼす朗讀の善惡の影響の絶大なる事今更言を待たないのである。

此處に一言しておかねばならぬのは世人によく文學を危険視する人があるが、文學と言ふものが如何に我々に大なる利益を與へるかについて菊地寛氏の言をかりて理解して戴きたい。『今なほ文藝を危険視する人がある。しかし人生何事か危険の伴はざるものがあるだらうか、海は危険だといふものがあるが、疊の上でも人間は死ぬのだ。文藝以外の宗教、倫理、教育あらゆるものにも人の魂を殺す危険がいくらかは伴つてゐるのではないか。豈獨り文藝のみを危険と謂ふべけんやだ。』

むろん、文藝にも人を毒する誤つた文藝がある。正當に文藝を攝取すれば、文藝は處世の指標であり生活の昂奮劑であり、生活の慰安である。

文藝の第一の利益は人生を知ることである。人間生活の眞相を知ることである。凡そ人間生活を營むに當つて人生の眞實を知ること程大切なことはない。支那旅行をするも

のにとつて支那の地理歴史を知ることが第一の必要である如く、人生の旅に出る前に人生の案内記を讀み、人生の眞相を人生とは如何なるものであるかをよく知つておくことが第一の必要事であるのである。人生は渡りそこねてはならぬ。人生は二度と渡れないものだから。人生の眞の姿は文藝に於て、一番正確に現はれてゐると云つて過言ではない。何故に人生の眞實を知ることが必要か、それは人生には多くのウソがあるから。

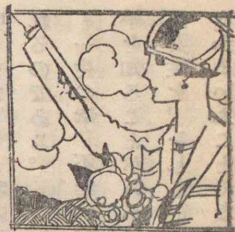
人生には随分銘々自分に都合のよい様な嘘がある。例へば日米の問題に就いて考へても米國は歐洲戰爭當時盛に正義人道といふことを口にした。然るに今や日本に對しては正義人道を無視してゐる。こんな分り易い國家的の嘘はすぐ目につくが我々個人的の嘘、社會的の嘘、又教訓的の嘘は可なり多いに拘らず一向目につかない。文藝はさうした嘘をまざ／＼と我々に示して、人生の眞の姿を知らしめてくれるのである。

一生の幸、不幸が定まる配遇者を選ぶ場合でも正しい相手を知ることがいかに必要であるか。女性に男性を、男性は女性を、そして正しい戀愛や結婚生活はどんなものであるかといふことになるのだ。が學校では一向さういふ人生

の眞實を教へてゐない。それかといつて實人生に於て男性が女性を研究することは不可能である。殊に女性が男性に近づく場合に多くの危険を伴ふか、だが文藝と云ふものを通じてならいかに多くの男女性を正しい戀愛を結婚生活を知ることがいかに簡單であるか。しかも何等の危険も伴はない。云ひかへれば文藝は人生の實驗室である。少しの危険も伴はないで人生の眞相を示す案内記である」と。

文藝即ち文學である。かうした文學に大なる効果があるを知つた時、我等は此の文學の基礎をなす讀方に主力を注がねばならぬ。この大切な文學に對して興味を起させることが必要なことで。その興味趣味をおこさせるには、やはり朗讀によらねばならぬ。朗讀は文學に對して興味をおこさせるばかりでなく基礎を創造するものである。かうして文學を研究せば自然大和民族特有の魂の流れれてゐる古典文學の研究に迄および、確實なる思想を得ることが出来るのである。勿論それは世間に立つてからの事であるが、さうなる時現代の誤まれる思想を有する者も根本的に立ちかへることが出来得よう。健全なる建國の精神を有することゝなるのである。かくの如く朗讀の必要なることを痛感する。それは讀方本然の姿は讀みより始まつて朗讀殊に藝術的朗讀に出なければならぬからである。(つゞく)





## 各學年經營の努力點

(其の一)

橋 樹・高 津 小 池 錠 太 郎

### 序

新しい時代には、新しい時代の精神を盛つた學級經營が生まれなければならない。

特に生活を重視し、郷土を中心とする教育思潮の勃興は學校生活との接觸をいよ／＼密ならしめて來た。

新時代の學級經營者は社會的機構に對する正しい認識と正しくてしかも信仰的な國家觀念とを持たなければ、學級に臨むことは出来ないと言つてもよい。

悲しいことに自分はこの新時代の動きを正しく認識する力を持たない故に、學級經營に就いて論ずるの資格はないのであるけれども、過去の體驗に顧みて學級經營の發展系列の大綱を持たないことは、新時代の精神をつかんで居ないと同様に、その日暮しの學級經營を行ふことゝなつて総合的、統一的なるべき教育の姿態が四肢散亂の様相を呈

してしまふと信じてゐる。

かゝるが故に自分は獨斷的ではあると思ふが、學級經營の發展的體系とも言ふべきものを目標として受持學級に臨んでゐる。

以下自分の考へて居る體系とも言ふべきもの、即ち各學年經營の特異點より見た努力點及び之が達成方案を述べて大方の御批正を仰ぎ度いと思ふ。

### 第一 家庭生活の連續的發表としての

#### 第一の經營

吾々の生活は連續的發展的な生命の活動そのものであつて、決して作らるべきものではなく、前の生活から必然的に次の生活が發展して來るものである。故に學校生活はかくあるべしとして型の中に入れる様な學校生活を營ませる

ことなく、入學以前の彼等の生な生活をつかんでそれを學校生活へと發展せしめることに努めなくてはならない。

即ち學校に入學した時から教育活動は開始されるのではなく、本能的にも彼等はまだ口もきゝ得ない時期から感官を働かして收得作用をなして居り、家庭としても有意的に入學前に於ける教育について努力を拂ふ様になつて來て居る時代である。

第一の經營者としては何よりも先づ入學前の彼等の生活を知ることには努めなくてはならない。

知ることは愛することであり、親しむことは知ることである。

更に知ることには成長發展を助成せしめることの第一過程である。故にそれは單なる分析的統計と概念的な觀察録に終つてはならない。調査なり、觀察なりはそれが兒童の成長の糧として生かされて行かなくてはならない。

その爲には第一の擔任者は少くとも三學期の初めに決定されて、新學期の準備を遺漏なくなさしめ、新學年には既知の人として新入兒童に臨み得る様でなければならぬ。

#### (一) 第一兒童の特異性

1 彼等の生活は未分科的である。

2 彼等の生活體驗は家庭中心であつた。

3 彼等の體驗は直觀的、具體的である。

4 極めて自然に親しみ易い。

5 彼等の生活は極めて明朗なものである。

6 社會的生活になれて居ない。

7 彼等の生活は活動的であり、表面的だ。

8 遊びを中心として生活が行はれてゐる。

9 腦新鮮で記憶保持の力が旺盛である。

#### (二) 第一經營の綱領

1 家庭生活の連續的發展をはかる。

2 學校生活を興味づけて、次第に社會的生活の訓練をして行く。

3 作業(遊び)を中心として合科的取扱を重視する。

4 自然に親しませ、郷土の事物への愛着の情を養ふ。

5 直觀を重視する。

6 通性に留意し、個に徹する。

7 元氣にみちた明朗な級風を作ること力める。

8 學校生活の最初より、自發的に、創造的に活動させることに力める。

9 低學年の教育者は特に確固たる教育的信念と、正し



き兒童觀を持つことに努力しなければならない。

### (三) 入學前の調査

以上尋一兒童の特異性と尋一經營の綱領について、箇條書きに述べてみたが、それ等を綜合して特に家庭生活の發展としての經營を行はねばならぬと云ふ念を強くするものである。前にも述べた如く家庭生活の連續的發展としての生活指導を行ふ爲には、何としても入學前の生活を正しく認識しなければならない。

以下入學前の生活調査事項を列挙してみることにする。

#### A 身體狀況

- 1 過去の疾病、及び健康狀態。
- 2 現在の健康狀態（父兄より聴取、又は觀察、診斷による）。
- 3 特殊なる身體的欠陥に就いて。  
特に眼、耳、言語、不具等については注意しなければならぬ。
- 4 睡眠狀態について。
- 5 身體検査（學校にて行ふもの）の結果の考察と、その後の取扱ひ。
- 6 入學直後の身體狀況の變化について。

これは情意方面とも關係のあるものであるけれども生活の變化が身體狀況に著しい變化を與へるものである故に最初のうちは特に注意したい。

#### B 知能方面

- 1 數へ方（十、二十、五十、百以上に區別して量と結び付いてゐるかどうか）
- 2 簡単な圖形の觀念、（四角、三角、丸等）
- 3 十以下の數範圍の數へ方。
- 4 文字の讀み方、書き方の程度について、（片假名、平假名、漢字、自己の氏名等について）
- 5 家庭での知的なものに對する指導の態度とその程度
- 6 言語や、運動、遊び等について特別に變つた點があつたかどうか。
- 7 與へた讀物の種類と量。
- 8 きかせたお話に就いて。
- 9 すきな歌と、音樂的な指導の態度傾向について。

#### C 情意方面

- 1 氣質について。
- 2 言語、行爲、態度等について。
- 3 嗜好について（特に食物の好き嫌いと身體態狀及び

- 生活態度の關係の吟味は面白いものがある）
- 4 注意すべき性癖に就いて。
- 5 好んで行つた遊戯と遊び振りの傾向。
- 6 家庭と其他に於ける生活態度との相違に就いて。
- D 家庭方面
- 1 家風、職業、生活程度に就いて。
- 2 周圍の狀況、及風習について。
- 3 學校よりの距離及その途中の狀態について。
- 4 教育に對する態度、特に子供に對する態度、（自由か干涉か等）
- 5 家庭で子供のなつて居る人。
- 6 主として兒童の世話をみてゐる人。
- 7 家族の狀態。  
（年齢、職業、兒童との關係、嗜好、趣味、性格、疾病、學力、行爲等特に遺傳、飲酒、喫煙等については詳細に調査したい）
- 8 兒童に家事の手傳を強制的に行はせるかどうか。
- 9 居住年數、住居の轉々としてゐるものはその經過。
- E 其他
- 1 兒童の名について。

誰がつけたか、どういふ理由からか、その子に對する家人の希望といふ様なものなども窺はれる。

- 2 すきな玩具。
- 3 すきな遊び場所、又は多く遊んだ場所に就いて。
- 4 動植物に對する態度と、好きな動植物に就いて。
- 5 旅行した經驗の有無、した者についてはその場所と期間等。

- 6 學校に來ることをどう思つて居るか。
- 7 身のまはりの始末が出来るかどうか。

大體以上の様な事項について、直接兒童に接し、又は家庭を訪問し、又は家庭通信による等して調査して置くことが大切で、出來ればこれは三月中に調査をすませて置いて入學式の時にはすつかりと準備をとゝのへて待ちうけると言ふ様にしたいものだと思ふ。

### (四) 學級としての準備と指導のスタート

何事によらず第一印象が大切である。入學式の印象が駄目であると學校生活のスタートを失敗させたことになる。

#### A 楽しい印象を與へること。

- 1 調査事項などはなるべく入學式以前にすませてこの日はなるべく調査も、注意も簡單にする。



- 2 出来れば入學歡迎會の様なものをやり、簡単な音楽會か、學藝會の様なものをやつてよろこばせ度い。
- 3 教室は出来るだけ兒童の興味を惹く様に準備して置き度い。

(教室の準備については後章に譲る)

- 4 登校下校共附近の上級生に世話をさせて上級生との親しみを深くさせ度い。
- 5 下駄箱、帽子掛等に名札をつけて置いてやつて、自分とのつながりを強く意識させ度い。
- 6 受持から面白いお話をきかせて歸してやり度い。

B 遊ぶことにより教師學友と親しみ學校を好きにする

- 1 遊び道具を用意したい。
- 調査によつて兒童の好きな玩具、運動具、カルタ等を調べ、それ等を備へて遊戲に學習に使用させる。學校で學ぶ材料もお家で遊ぶ玩具も變りないことを知らせて周圍の事物に次第に學習的な眼を向けさせる様に指導する。

2 遊び場所の豫定地を調査して置く。

學校を中心として附近の川邊、山林、野原、海岸、池、社寺の境内等を調査して置く。又それ等の場所で兒童

- 3 砂場や運動場の遊びについて調査する。
- 4 楽しい教室とする。

がどの様な生活をしてゐたかを調査して、遊びと場所との研究、教材と場所との關係を考究して置き、時に應じて適當の場所に引率して指導を行ふこと。

砂場や運動場の遊びについて調査する。

楽しい教室とする。

- 5 單に設備方面で楽しく明るく教室をするばかりでなく教室の活動そのものを楽しいものとする様に力める。
- 6 よくお話をする。

子供は先生とお話をすることを非常に好むものである自分のした事、家族のこと、其他あらゆる事柄をとらへて先生に話しかけ様とする。これは子供と親しむと共に彼等の生活を知ることが出来て非常によい。しかし一方に先生に近よらない子がある故注意しないと表面から觀察すると先生の愛が不公平になつて居る様に

とられる故、近よつて來ない兒童への取扱を等閑にしてはならない。

C 自然物に親しませる。

- 1 動物飼育、特に池に金魚、鮒、鯉などを放つて置き度い。
- 2 植木鉢、これは兒童に家から少しの間づゝ持來たらせてもよい。花壇も一年生にも配當して手入れをさせ度い
- 3 校外の遊び場所に引率して自然に親しませる。
- 4 又課外運動として、郷土に親しませることも考慮して町村内を順次見學して歩くことが非常によい。

特に高い所から學校や、自分の家の附近を見下すことは彼等にとつては非常に興味のあることの様である。

D 學習に興味づける。

- 1 遊びの中に學習を折り込む。
- 2 お話による學習の重視。
- 3 作業を中心とした合科的取扱ひ。
- 4 調査に基づく個別學習。
- 5 學習に興味づけて自律的態度の訓練。

E 家庭との親しみを深めて連絡を密にする。

- 1 家庭との連絡方法。

家庭訪問、家庭通信、學校參觀。

- 2 特に兒童の親しんで居る家人と親しむ。
- 3 成績品の家庭廻覽。
- 4 家庭の屋號のいはれ、通稱などを聞くことによつて家庭と結び付く。

F 其他入學當初に於いて注意する事項。

- 1 體重の變化、食物の攝取量の變化に注意して學校生活が身體方面に如何なる影響を及ぼしてゐるかを考慮する。
- 2 家庭に於て以前との生活の變化を觀察してもらふ。
- 3 なるべく自分のことは自分で始末する習慣をつけると自分の所有物を明瞭にして置くこと。
- 4 特に學校を嫌ふ様な兒童に就いてはその原因を速に發見して根絶につとめる。
- 5 成績の思はしくない兒童に就いてはその原因を那邊にあるか速く發見して適當の方法をとること。
- 6 以上簡單ではあるが尋一の教育の如何なる點に重點を置くべきかに就いて自分の信する所を述べてみた。

然しこれが全部ではないことを最後に斷つて置き度い。





## 二次方程式を取扱ふまで

都筑・都岡校 足立進一

### 初めて代數を習つた子供には

初めて代數を習つた子供には、定めて今まで持つて居つた概念或は觀念に大きなエポックメイキングをしたことだと考へます。極めて初めの中は數を文字で言ひ表すことがしつくり解らない!! 文字が數の代表だと言ふ本來の意味が解つてくるのは相當代數の扱に馴れてからだと思ひました。20錢を $\alpha$ 錢とする場合20錢を $\alpha$ 錢で代表したのだからぴんと觀念の中に聯合されない或る數を $\beta$ とするとか又は任意の數を $\gamma$ とするとかの場合、 $\beta$ とか $\gamma$ とかが伸縮自在のものであつて雲の様に考へら

れる。どうしても $\alpha$ とか $\beta$ とかの數が與へられないと安心が出来ない。負數の問題なども數の範圍が倍になつたことや、減法が常に可能になつたこと、其の他代數の持つ特徴が既有的の觀念に相當の補遺を加へられたのだから、其の取扱ひには相當の考慮が必要と考へました。次に擧げたのは其の考慮の一部なのです。

### 記録形式から来る數學的錯覺

今まで知つてゐるだけの知識で物事を判斷するとき間違が生ずることがあるその既知の知識の量が少い程間違が多

いやうです。今一つ形よりくる數學的錯覺で判斷を誤る場合が多い。例へば $a$ を任意の數として $a$ と $a^2$ と又 $a$ と $a^2$ とどちらが大きいと言へば、殆んど $a$ と $a^2$ が大だと答へる。判斷を誤る。

又は誤り易いからその間に形式等の難易を生じて来る。 $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ の應用の場合、 $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ よりも $(a+3)^2 = a^2 + 6a + 9$ の方が子供には難しく考へられる。 $6a$ が $2ab$ と形が一致しないからだと考へます。 $(a+b)^2 = 16 + 40 + 25$ は、尙 $a^2 + 2ab + b^2$ から離れて何々の自乗がなくなるからです此の様なことから子供に新しい教材を授ける場合、形が順次に少し宛變るものを提出して、理解力を極めて順調に進めて新教材を理解させることが必要です。 $a^2 + b^2 + c = 0$ 之から導かれる $a = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$ と $a^2 + b^2 + c$ の形ばかり出てこない。之から $a, b$

を總て0でないとしても次の八箇の形が生ずる。

$$\begin{aligned} ax^2 + bx + c &= 0 & -ax^2 + bx + c &= 0 \\ ax^2 - bx + c &= 0 & ax^2 + bx - c &= 0 \\ -ax^2 - bx + c &= 0 & -ax^2 + bx - c &= 0 \\ ax^2 - bx - c &= 0 & -ax^2 - bx - c &= 0 \end{aligned}$$

この形を總て練習し、その上 $a, b, c$ を0とした場合も一、二練習してから、教科書の問題又は其の他の練習題に入ることが緊要であると考へます。

算術で難關を突破するとき極めて大切なことは、思考順序を飛躍しないで理解の深さを細かくきざんで行くことが實際取扱上極めて有効な方案だと思ひました。ウラル山脈を列車が越えるとき、乗客に少しも大山脈を越してゐるのだと言ふことを感ぜしめない所の勾配、實際授業にもあの遠くからゆるやかなの勾配で進めて、子供に難關だと云ふ觀念を割合に起させない様にするところが大切です。教科書の問題を順次に

取扱ふ場合あのまゝ行つたならば、たしかに子供には難かしいと言ふ觀念が先に來てしまふ心配がある。その程度の問題に移るまでの豫備知識を與へてやるのが大切だと考へ、次の様な條件を持つ豫備教材を課しました。田舎の子供で家庭で自習時間が少く且教はる人がないことを考慮に入れ、計算は總て諸算で出来る程度のものにし、種類は思考順序が順次に變つて行くものを作り、プリントで出してやりました例へば高二教科書十二頁(2)では次の様なものを提出しました。

$$\begin{aligned} 1. \quad x^2 &= 64 & \text{視察で開平しきれるもの} \\ 2. \quad x^2 &= 33 & \text{視察で開平しきれるもの} \\ 3. \quad x^2 &= 625 & \text{開平計算を用いて開平しきれるもの} \\ 4. \quad x^2 &= 1200 & \text{開平計算を用いて開平しきれるもの} \\ 5. \quad x^2 &= 2 & \text{一般形} \\ 6. \quad 2x^2 &= 8 & 7. \quad 3x^2 = 6 & 8. \quad 4x^2 = 404 \\ 9. \quad x^2 = \frac{1005}{5} & 10. \quad 3x^2 = 5 & 11. \quad 4x^2 = 25 \end{aligned}$$

以上の十四の形を總て練習して置くことが大切である。之で教科書に出て来る形は盡きてると考へます。何故之まで必要かと申しますと、子供は同じ形であつても文字を代へただけで出来ない場合が多いからです。この様に私は次の教材への連絡の順調を計りました。

### 一思考一記録の特長と其の取扱上の注意

人によつて非常に理解力(のみ込み)の早い人と遅い人があります。理解力の早い人は機敏に推理力が働いて、今までの豫備的知識と結合して一つの判斷を下すことが出来るからではないかと考へます。二つも三つもの思考をてきばきと整理することが出来るからでせう。子供に算術を課する場合に教師自身にはたしかに自明の理でも子供に



は中々そうは行かない。 $2^2=4$   $3^2=9$  がわかつて  $1^2=1$  が理解出来ないが、 $1^2=1 \times 1=1$  とすれば解ると言ふ程度のもです。形から直ちに結果を導かうと努力して出来ない場合が多い。

$2^2=4$  と記録されるよりも  $2^2=2 \times 2=4$  と二思考を別々に書いた方が理解し易い。それどころか、考へる實際に當てはめて、例へば

教科書 14 P. (9) の説明のとき。

一思考一記録だと

$$ax^2 + bx + c = 0$$

$$ax^2 + bx = -c$$

$$\frac{ax^2}{a} + \frac{bx}{a} = -\frac{c}{a}$$

$$x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 = \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 = \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 = \frac{b^2}{4a^2} - \frac{c}{a}$$

$$= \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}$$

$$x + \frac{b}{2a} = \pm \sqrt{\frac{b^2 - 4ac}{4a^2}}$$

$$x = -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

教科書通りだと

$$ax^2 + bx + c = 0$$

$$x^2 + \frac{b}{a}x + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 = \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \frac{c}{a}$$

$$\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 = \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}$$

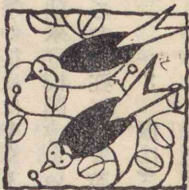
$$x + \frac{b}{2a} = \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

$$x = -\frac{b}{2a} \pm \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

之で見たならば如何に教科書の例題は途中に於て二思考、三思考を頭の中で

まとめて記録することが省いてあるかが分るでせう。一思考を一記録で行ふときは、二思考、三思考を關係づける間に、その間の關係や變化が意識の中で消え失せやうとすることが無い爲、それだけ計算に確度が増されるわけです。それは視算と聴算とでどちらが困難かと言ふことを考へたならば解ると考へます。問題を與へられて之を最も説明し易い方法で説明せよと云ふ場合、この方法には明確と單純では優れた長所があります。而しこの一思考一記録の方法のみでいつも行ふことには大きな疑問があるばかりでなく反對です。一面獎勵して置きながら反對とは論理に合はない様ですが、その理由は次の通りです。此の方法は理解の課程にのみ有効であること、能力の低い子供には有効であること、記録形式が複雑に過ぎて實用に適しないこと

算法の一般化、公式化(單純化)と云ふことに遠い事、唯初めに其の教材を理解させるときに必要であるのです。



## 奈良雜感

小田原第三 小島 峰 吉

### 1 奈良行を企て、

斯様な案内書がある。出かけて見てはと、久野先生から拜見したのが奈良第拾二回學習講習會。第拾二回！其の回数は吾等に何を物語つてくれたか、直覺的に！。

學習の文字、嘗ては吾等が初等教育界に、根本的革新への大波紋を描いた其の文字、學習講習會。

學習！一昔前に叫ばれた過去の言葉、古い言葉、其の古い言葉の中に、今でも新たな内容價值ある生命を宿してゐるかしら。

本箱の中から古雑誌を引っくりかへして探して見た。大正十五年迎新春號

を最後として、僕は暫く、いや久しくだ。奈良の學習と直接の交渉は斷つてゐた。

最近の奈良を知りたい。豫備知識を得たい。切めては、其の後の學習教育伸展振りを概観したいと、近所の書店を訪れて、學習研究愛讀者を探し求めた。今其節、店員某君の言を綜合するに、吾が足柄上下には個人愛讀者四五名、學校購入兩三ヶ所、此れ何と微々たる數字ではないか。吾が足柄が奈良の自由の不便を感じ不都合視してか

自由の奈良が、足柄與に頼むに足らずとしてか、兎に角兩者は斯くも疎遠の間柄だつた。

奈良へ行く、果して獲物があるかと疑念が不安を生めば、旅行にも第二段の準備をととのへしめた。不安の企てだつた。

### 2 意外の盛況

「昨日來、満堂の諸君、實に千三百有餘の各位が、親しく、極めて、熱心に、實地授業の諸相を御覽下された様に、吾が奈良の學習は！」

とは、此れ木下主事が、講習豫定第二日實地授業參觀後に於ての挨拶の冒頭辭、何たる盛會事だつたらう。北樺太の果から、南臺灣、朝鮮、滿洲の新附地方を網羅して、會する千有三百校内は到る所村夫子の波なり、斷然時代の尖端を行くげにみゆる洋裝美人もあれど、毬栗頭、禿頭、さては兄先緩く巾廣帯の中老婦人も見へる。實に千姿萬態、夫れ等が一路所謂學習の本態を掴まんものと、鵜の目鷹の目、教室と廊



下を埋めつくして、外庭窓外にも溢れるの盛況。

間斷無き電光と雷鳴とを車窓に受けた豪雨の一夜、それが鈴鹿の峠を越ゆる頃から静まりかへつて、夜も明け初めた。梅雨の晴れ間らしい京都驛に下車したのが七時、奈良行列車待つ間四十分、南都行村夫子タイプを見出すこと僅かに二人、當の奈良驛下車に際しても百にも足らぬ淋しさに、不安から失望へと陥つた吾人の惱み、それは定に一刻の杞憂に過ぎなかつた。

開始の定刻に後ること何分、宛然集會の常套事として誇るものの如く、悠然として遅参した吾人の不覺さよ、眞摯の徒ははやくも前日南都に馳せつけ朝來登校開會をいまやおそしと鶴首するの熱狂ぶりであつたのだ。

3 振はざる哉吾が神奈川縣  
流石に商賣柄、白亞型！白亞喫？

まさか動物の感能からでもあるまいか、それと知つての客待案内「え！愛知縣の先生方は手前どもへ！」と戸毎にたてられた學習講習會指定旅館愛知縣と言つたやうな看板の前にたつて揉み手しながら僕等をも迎へてくれる宿の若者。はて神奈川縣の指定宿は！行けど探せど見當らない。旅館組合本部を訪ねて漸く知るを得た、印刷屋だ。猿澤池畔の金波樓だつた。

九時に近い、荷物を投げ込んで附屬へ、そして參觀から參觀へと、人の波押し別けての玉の汗。夜汽車の不眠に引續いての午前、午後の參觀、眞實心身共に疲れ果て、旅宿に引上げた。其處には御定りの宿帳が待つてゐる。新緑の色に圍まれたあの苔むした様な池水が、古色蒼然老松をも睥睨した五重の塔の、其の影をうつして待つてゐる筈だつた。いつもは無醉視して顧み様

ともしなかつた宿帳が、今日ばかりは何となく慕はしい。同宿者として、同縣の如何なる舊友知人を紹介してくれるか、異郷に舊友と會し、知人と語る何たる樂しみぞやと、足も心もいそいそとする。

愛甲六、久良岐二、津久井一、それに僕等の二名を加へたものが吾が神奈川縣の總勢だつた。割合に少壯連中である。既知も未知も忽ち寢食を共にする百年の舊友の様な親しさに打ち溶けた。愉快だつた。

階下には山梨の二十三四名、棟を隔て、北に千葉、西に東京、何れも僕等の二三倍に達する賑やかさだつた。東京には婦人連も二三交つて見へた。大舉一旅館を獨占したものに愛知、兵庫がある。百二十有餘名の豪勢には一驚せざるを得なかつた。徳島、香川の四國組も亦優勢、揃ひの浴衣に市中を還

り歩いて、氣勢を揚げてゐた。阿波特有のギツチョンチョンが猿澤の水の面を這つて、僕等が枕頭をも襲つた。

4 學習の全面に注視する  
參觀者

あの山路訓導が講演の中途に挿し挟んだ。會衆に對する贅辭を記るさう。

所謂月次の御世辭も多分に含まれてゐる事とは思ふが、あながちそのみが全部とも思はれない。言に曰くだ。私は吾等の奈良に御集り下さる皆様方の只數の上での多きを喜ぶものではない

喜悅は其の質に在る。學習の眞の姿を掴み出さうと活目さるゝ其の精神に在る。私は御存知の通り只今尋一第二回目の合科指導に携つてゐる。同じ教室同じ學年、そして同じ合科扱への參觀者には、其の着眼といひ、熱心振るといひ、六星霜を隔てゝ、それこそ全く天地雲泥の相異がある。抑々學習、兒

童の發表時、一齋取扱の際にのみ、教室の内外を埋めつくして、後は大風一過の姿だつた六年前と今日の各位、昨日も今日も、兒童の登校から退校時まで、自由、相互の二學習から休憩時遊戯のそれに到るまで、生活面即學習面として御觀察を遂げられた其の眞摯さ誠に敬服に價する。吾が奈良に對する各位の識見は事程左様に細く高く、從つて吾が奈良への評價もそれだけ正しくされた譯だ。學習研究の爲喜びにたえない次第ではないか。と、

事實參觀者は熱心だつた、忠實だつた。目指す教室には居据つて離れない教具にも學用品にも血眼、環境の微細も此れを見落すまいと努めた。授業終れば或は指導者に正し、兒童に尋ね。よく午前午後の六時限をも見通したものだつた。辛棒強かつた。遠路はるばる馳せ参じた篤志の集りに相應しかつ

た。

5 研究と永續性

木下主事の研究經過發表に尠からず感動し込んで、旅宿に引き揚げた僕は一風呂浴びて旅の疲れを癒さうものと抜け駆けの様に浴槽に飛び込んだ。其處には既に先客三名、初老ともおぼしい美髯を挟んで少壯二人、若りに千葉が昔の盛況を偲んでの問ひつ語りつ。

佐倉の先生達だ。嘗ては千葉の大家分家宗家の客、是はその大半をひいて、雜誌に著書に天下に知られた其の佐倉の先生方だつた。手塚氏無き後の千葉の淪落、自校の衰退、裸體同志が湯氣の中に、忌憚なく、それこそ文字通り赤裸々の述懐、僕も其の御仲間入りの幸福を得た。關東同宿の餘慶とも言はうか。美髯の述懐には屢々木下主事の自信に満ちたあの經過發表の要所がひかれて時に美望の的となり、或は推賞の



辭とかはる。

奈良は、全く大正八年學習の叫びを古き南都に擧げて以來、一糸亂れず世評に超然として、一路其の所信に向つて邁進した。時あたかも教育革新説の簇生時代、明石に千葉に、南に北に、自由を叫ば創造を唱へ、生命を尊び衝動を重じて、其の姿態の華かさ、あでやかさ、今にして思へばそれ等は寔に線香花火の如き一瞬の美體であつた。千葉亡く明石も亦とうに無い。

一日大軌電鐵の至便を籍りて、講演後大阪行を企てた。車中に講習マーク付數名の一團がある。聞けば神戸市よりの日通ひ(七十分)連中、旅の空だ何の遠慮も無い。早速明石の其後を尋ねて見た。あれかねと軽く鼻の先であしらはれてそれなり、彼等は語る何ものも持たぬと言つた様な面持だつた。推して知るべしだつた。一日事務所に

來信を受取つた序に、門衛子を捉へて年々學習會の状況を問ふて見た。白の詰襟からかぼそい首を突き出した老人ではあるが其の聲には自信があつた。誇りを含んでゐた。年々増せばとて減する事無き千餘の會衆に。

當附屬が、學習實施以來年を闊する十有三理論實地の二面に即して、漸く此處に若干の自信を得た。研究は此れからだ。全員擴つて學習研究の大收穫に終生の努力を捧ぐべき愉快さに満ちてゐると主事は壯語して悠々壇を去る研究の永續性を如何に強く暗示してゐるではないか。

6 圓熟せる兒童の學習態度  
よく奈良の先生方は言はれる。尤も周到なる指導は自由學習時にある。此の指導にして要を得ば次の相互學習の如き寔に易々たるものと。實際兒童の學習帳を繰つて見、面前自由學習振り

を見る。學年は學年なりに、己れの力に即した、餘り無理の無い努力を、而も相當要領よく進めてゐる。常に個人表を手にした教師の所謂個別指導が、何れも急所を衝いて、最高度の効果の現はれたものか。

兒童が學習の圓熟味は、相互學習に於てより多く窺はれる。嘗ては恐らく參觀者の總てをして、あの問題からあの敷間、あの轉廻、枝、葉、本、節、全く無縁の些小事に、脱線はてしなく復脱線、而も口嚙泡を飛ばしての大論戰何時になつたら！教材は、と嗟嘆せしめずには置かなかつた。あの脱線振喧嘩腰、それが全く尋常一、二年の幼童にすら影を薄めてゐるではないか。懐し味を帯びた對話口調で、靜に尋ね、諄々と教ふる討論者、其の對話を耳聳てよく聴きよく吟味し、批判する集團學習體、其處には卓を圍んで睦

み合ふ一家團樂の趣がある。斯くして眞に正しき理解は滑かに各人の間に行はれる。此れをこそ眞の自發學習と呼ぶべきではあるまいか。

#### 7 嚴たるプランの存在

自由教育だ。兒童中心だ。教材は、教法は兒童から生れる。兒童が提出する。兒童が何を捉へ、如何に發展するかは豫測し得べき事柄で無い。プランは不要、方法は其の場で生れる。窮すれば通ずだ。プランは指導者の腦裡に潜む、機に臨みて應變すべきだ。此れ寔に重寶なる自由教育論と世は擧げて自由教育論に傾いた。猫も杓子も。

自由か放縱か！自由にも則は嚴存すべきでは無いか、則を越へたらそれこそ放縱、扱て其の則や何處に形や如何、此れが把握は難中の難、皮相の徒は此の根源を極はめずして遂に自由教育を誤つた。

嘗て奈良の實際學習振りに面接すること年を隔て、兩三度、其の節兒童の向ふ所、教師の措置、無規範、無軌道の感深くして、遂に一教材の完全なる取扱ひにも接し得なかつた。時間と教材とに超越せねばあの學習には出られない。此れが參觀後の結論だつた。

其の後の奈良を知らずして、授業豫定を手にした時、此れはと些細驚異した。第一日、第二日と連續一教材の完結的取扱ひに接しては無限の喜悅に奈良學習の將來を祝福せざるを得なかつた。

實地授業に講演に、其の説く所行る所、各教科にはそれぞれ教材系統の新建設があり、それが取扱上には亦指導系統案の確立がある。學習は此の二根抵の上に取材し筆記されて、兒童も教師も其の大道を驀地、眞のプランを辿つて、一向學習經濟の實効を擧げてゐ

る。滑かに柔かに。此れでこそ奈良の學習も有目的教育活動としての十二分の價值を備へたわけだ。

#### 8 革新教育思想も結實期

所謂雨後の筍と文字通り簇生した教育界の革新思想、それは同じ時代の傾向に覺醒し、同じく時勢の要求に刺戟されての誕生ではあつたが、其の着眼其の論旨、而して其の方途の上にはそれぞれ獨自の姿を備へ、甲論乙駁容易に世の歸趨を定め得なかつた。世人はいや世の識者さへも其の判定に困しんだ。

時の力は恐ろしい。時の力は偉大である。人間が智能を傾けて而も其の處置に困憊しつくした事項も時は靜に此れを解決し去つた。五指十指にも餘らふ程に賑やかだつた諸説も、消滅すべきは消滅せしめた。論旨を轉すべきは轉せしめ、更生すべきは更生せしめた



十年の星霜はよく玉石を精選し、雜然たる諸説によく吟味を加へ批判を重ねて自然淘汰を試みた。

其後も逐年大同小異の革新説が擡頭しては頻りに教育界に呼びかけて来る。夫れ等は何れも從來の論理的、理想的、劃一的、一點張りの教育法を破棄しては、新教育法建設を企圖する其の原理であり原則であつた。高遠の學理を説いては新建設への根底を築かふとしてゐる。然し現在の教育界、吾々實際人には、夫れ等の新教育原論も大いに留意研究を必要とするが、より以上の緊急事は、嘗て大建設への前提として破壊を受け、受けて而して建設の運びに至らずして今日に及んだ其の收拾にある。新時代に恰適すべき良法の建設にある。

私は今回奈良の學習に、如上の要望を満足せしむる幾多の部面に接し得て

甚だ愉快だつた。清水先生の研究發表算術の新系統と指導の實際、山路先生の讀方學習の指導系統等は、其の一例に過ぎない。

#### 9 講演と其の内容

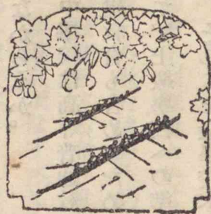
奈良附屬全員總出動での講演だつた講演者は各自専攻の部面に取材して、何れも蘊蓄を傾けての發表である。皆人として傾聴せしめずには措かぬ程の堂々振り、學理の説明もあれば學說の紹介も交る。が然し吾人をして最も多

くの喜悅を感じしめたものは、奈良が多年實地研究の清算的報告、實際經營より生み出された新教育實施上への諸系統新建設の發表である。事例を實際教授、實施事項に採つては具體的に論旨を進め、所説を完ふさるゝあたり、それ等は最も時宜に適した内容であり方法でもあつた。所謂教育實際家としての眞價を充分に發揮せられた點に對

して、敬服せざるを得なかつた。

吾人は學說理論よりも、實際方面により多くの興味を覺へ、期待を持つ。斯道の經驗家が其の經驗を具體に述べて、其處から歸納抽出された教育上の法則方法論には眞に共鳴すべき幾多のものと認めずには居られなかつた。今後の奈良が何を構成し建設するか、奈良の將來に益々此の種の期待をかけ得る事は、我が教育界の至幸と言はねばなるまい。

講演の内容既に然り、而して説くに諄々恰も少兒に諭すが如き親切振り、如何に愚鈍の吾人と雖も、所論の大様は此れを解し得られた次第だつた。只遺憾なのは時間の不足、折角貴重な講演の其の結論に一瀉千里、詳細は何れ雜誌に著書にと言つた氣振りのほの見えた事だつた。(終り)



## 『綜合中學の實現』を讀みて

Y S 生

「綜合中學の實現」とは、最近淺野中學水崎基一先生から贈られた一小冊子の題名である。昨年ダリーの記録をねだりしことの今日あるにいたりしかと察する。多年の知遇をうけ、殆ど朝夕、先生の敬虔な人柄に親近しきたつた私は難有く一揖し慎んで是を繙く、先づ文勢ひしひと吾人の胸臆に迫るものあるを覺ゆ。筆路縱横、微に入り細を極め理路坦々、恰も夷路を行くが如く、一言贅せず一句背かず宛然容姿端麗にして束帶せる官人を拜するが如き思あらしめた。眞や「文は人なりけり」か。

冒頭「淺野綜合中學校を創立せしより正に十一年を経過し」に筆を起し中學教育に對する抱負の一端を諄々として叙述されてゐる。久しいかな綜合教育の理想を懷き黙々として拮据經營此に十有一年、其の間には財界の消長と時運の隆替とか交々來りて如何に經營を困難ならしめたことで

あらうか。語るべくして一言筆こゝに及ばざるは、按ずるに校運そのものよりも寧ろ教育理想の實現についての苦慮の大なるものあるからであるまいか。それ程世間一般は綜合教育の深き意味を理解し、之を歡迎するまで自覺しえなかつたことは事實である。そこに經營者の陰慘なる忍苦精進の跡を具に涙して偲ぶべきものがあるのではないか。

が併し、埋木ならぬ十一年の冬籠り、我も他も綜合の名をだに負ひて、今を春邊と咲き誇らんする「綜合中學の實現」の時は來たりつゝあるのだ。が、少時、待て、慌てるな。それは教育者の自覺から來た叫と早合點をすな。冊子は語る「文部省がかく時代の要求に應じて新施設を唱導するに當り」と。

曾て某知名の教育家の「我國の教師ほどお役所本位の者はない。役所の威光でなければ腰を持ち上げないのだから」



との話、今こそ思ひ合す、いつの世にか教育實際家が、世界の趨勢と、社會の趨勢と、國家百年の後を自ら洞察し、自ら進んで教育理想案を實施しうるであらうかと、が併し今回國として綜合中學の制を採用する迄には、吾が淺野綜合中學に學ぶ所が恐らく尠なくなつたであるまいかと思ふ。ともかくこの悦ぶべき一般現象であるにひきかへ、これはまた「都會地の中學校などは之に耳を假さず、東京市に於ても神奈川縣に於ても、縦ひ經費の都合ありとは謂へ、その實行を一年間も猶豫せんとすることは、我國教育の爲に限なき遺憾の念に打たれざるを得ぬ。要するに社會の要求は目前に迫れるに關はらず、對岸の火災視して教育當局者が之を閑却せんとする傾きありとせば、教育の本義より考へ實に痛心に堪えぬ」とある。余輩たるもの一應は謹聽せねばなるまい。が、前にも言ふ如く今は役所側より是一般が猶無自覺に置かれてゐると云ふを寧當れりとするではなからうか。

中學校は高等普通教育を本旨としてゐるが、専門教育の基礎教育も含めるため、いつしか普通の二字が塗りつぶされて、上級學校への準備教育にまで發展した。

そして上級學校へと進む小數者のため、多數者を犠牲と

なし、即ち學校の貴祿の高卑には何の關係のない部類なりとして、一面人間を造るといふ教育の本義は全く忘れ去られてゐるのだ。之が小、中學校の準備教育本位の現情であるとは、そも／＼うたてき極みではないか。

さればにや「文政審議會に於て、中學に於ける職業問題の提案せらるゝや、之に反對する人々は、何故に職業教育を盛ならしめんと欲すれば甲種高等工業農業學校を増設せざる。何ぞ中學教育を破壊して職業化するの必要あらんやとの意見があつたとのことなるか。これは中學教育を以て單に準備教育となし、官吏、教員その他文藝上の文士教育を施さんとする舊習に泥める議論であつて、今日の時代が如何に進展し來りたるやを洞察する明なき僻見と言はねばならぬ」と眞向からうち下され鐵槌、グワンと來た。

抑々小、中學校は普通教育をする。其の普通の意義の中に實業科を認めえなかつたほど時代おくれで、職業精神、勞働奉仕などは人格陶冶、人間教育の妨げとなる位に考へてゐたのだから「今日の所謂中等學校は不具の發達をなさしむるものにして、全き人間を養成する教育としては、深甚の缺陷あると認めざるを得ぬ」と、嚴かに宣告せられたの無理はないと言はねばなるまい。

小學國芳先生は言ふ「單に體育とか數學とか、或は合格率とか展覽會とかは、ウソの教育なのである」と、然りホントの教育は勞作的、綜合的のものだ。謹ならざるホントの教育をする者、世間果して幾千なりやと質したい。

産業立國はすべてを超越した過去累代の國是である。從來の教育がさうした根本國策から割出されてゐたであらうか、否、否、否、吾等は試験地獄に六道の辻で迷ひ兒にされたり。思想國難に呪の重みをいやが上に感じたことはあつても、専門教育の門以外に、産業教育の聲をきくこと餘りに稀であつた。縱令文部省が勤勞精神の涵養を唱へたにしても極めて最近のことではないが、小學校に實業科を設置したのも昨今のことではないが、情、我國工業不振の幾多原因の中、今その一例を言はうならば、此に一臺の飛行機を造るとせよ、先づ技師が設計し、職工が工作し、最後に飛行家が操縦すると云つた段取を普通とする。然るに獨米の如きは設計技術者は工作の技能を兼有し、その上設計者も工作者も共に、操縦技術に長じてゐるといふ。これが彼國工業發達の迅速なる一大原因であるとかきく。唯この一事ですら、三且渾一教育の劃期的重要性を有するかと證明されると吾人は思ふ。

曰く「試みに日本に於ける工場に赴き、その工場に於ける職工頭の有力なる人材の存するを問はゞ、みな其の乏しきを數ぜざるものはないであらう。我が國は、有力なる技師、支配人等は高等教育機關によりて養成せらるれども、實際の仕事を楽しみ、所謂下士卒となつて勞働者の十人頭二十人頭となるもの乏しく、今に無教育の職工頭を以て満足せざるを得ざる有様である」と即ち、教育を支配階級のためにして、勞働階級のために計らなかつた。況んや心身一如勞資渾一人を目的とせるにあらざりしことは言ふまでもない。貴族的、進士本位の教育ではあつたが、民衆的、勞働者本位の教育ではなかつた。その結果が遂に今日の如き高等遊民の殘骸となり、危険分子の醗酵をきたしたのは蓋、當然のおちである。豈管マルクスボーイをのみ誣ひんやである。

吾人が勞作教育を唱導する所以の者もこゝにある。手の鍛練に技能の巧みならんを期待したり、特殊職業の基礎を與へんなど考ふる者でもない。小冊子は語る「獨逸前皇帝の此頃の如く木挽をなし、同皇太子殿下の如く鍛冶に従事し自ら働く」と、この精神ありてこそ眞の人間を以つて築かれたる産業王國の實現をみるであらうからである。



一般には今日未だ綜合教育の意味が意識されてゐないやうである。小學校の實業科にしも、選擇科目、隨意科目は綜合的に活用することに於いてこそ、該科設置の精神が徹底せられる、小學校でさへ教育の綜合化を稱へつゝある吾人は、國民綜合中校の提唱において「我が國將來の運命は眞に我が國中等教育の指導如何に存することを痛感せねばならぬ。さりながら、今日の如き中等教育にして單に高等教育の準備機關たらしめば、果して其の使命を達成し得べきか、現狀にて進行せば純然たる偏知教育に流れ、我が國民性を陶冶し人格教育を高調する如きは、頗る至難の業と謂はねばならぬ。加之我が國民保健の立場より觀察するも受験準備の爲何程不自然なる學生生活をなさねばならぬか圖り知べからざるものがある。之我等が邦家百年の爲最も慎重に我が國中等教育の革新を計るべき時機到來せるを信する所以である」と、雌伏十年、今日綜合教育の時機の到れるをみては、吾人と雖、流石に邦家のため欣躍抖舞の情禁する能はざるものがある。而して氏が我國綜合教育並に勞作教育の先覺者であり、功績者であることを確認すると共に感謝措かざる者がある。

文部省社會教育官金井浩氏は言ふ「青年職業と云ふもの

は種々の學理の綜合である。人間として其の人が活動すると云ふ點から考へて一つの綜合的なものである。そして教育に於ても綜合的な教育と云ふ事が内外共に叫ばれてゐるので、實際問題としては職業教育或は學校の教練の如く、青年教育の中心である處の教育が本當の綜合的なものである」と、かゝる教育の綜合化に思ひ到らずして今に分科的に専門的に教師中心の注入教授に、準備教育に父兄の歡心を買ふことに汲々たる者の多きをみては、我教育界の覺醒も百年河清をまつ類か、あゝ。

「我が思ふところ」の中に「壯者をして走り且つ強れしむると云ふ淺野翁の學校として、勤勉努力をモットーとして激勵すべき事は度々書きもし、語りもした事なれば繰返す迄もなけれども、更に自分の心よりの願は、烏滯がましき様なれども、我が國に愛の學校を建てたいと念ふたのである。それはベスタロヂやフレイベルに私淑すると云ふ譯ではない。愛なきの學校は教育の果實を見る事が出來ず、砂漠の内を彷徨する様に思ふたからである。之に反し愛の缺に依りて耕したる學園こそは、地上に於ける樂園たるを想はしむる」と語り「青年を愛するは其の青年に對し一生の針路を指導するより大なるはない。職業の指導はあらゆる

仕事を深からずとも廣く教へて、自ら其の得意の點を選擇せしむる事が必要である。今日の我が國の中學校制度は、既往に於ては準備教育機關としては、相當の成績を挙げたるは勿論なるが、今日に於ては五百有餘の中學校も設立せられ、中學校を以て最終の學校教育となすものも少くないさればこそ、實業課目も相當に編入して、たとへ純然たる職業教育たらずとも、職業指導の方向を知る資料となすは當然にして、斯る現代の要求は實に適材を適所に向はしむる捷徑たるを信するものである」と、吾人をして思はず案を拍たしめた。

前には精神王國の建設において、「今日、我が國に中學教育の如く、修身の課程とか、公民科とか、さういふ科目を有せば精神教育を達し得べしと思はゞ、大なる誤である。昔孔子や或はソクラテス基督の如く、周邊に親愛なる弟子を集め、その團體の道德を強くし、高き標準を以て人物の高卑を批判し、造次にも、顛沛にも、新しき精神王國を建築するを以て志としたるに對しては、欽仰の念に打たれねばならぬ」として絶大なる精神王國を興し、その團體の批判によりて國民道德を發揚せんとするといふが如き。

國民性改造に説き及んでは「最も國民性陶冶に貢獻をな

すは中學校である。何となれば青年の危機とも稱すべき十三、四歳より十八、九歳迄は中學在學中にして、此の時こそはトマス・アーノルドの如く新島襄先生の如き精神教育家が、一生の心血を瀉きて薫育に従事すべき時である。國民の中堅たるべき人格の養成は、此の五年間の成敗に依りて決するのである」と青年の精神教育の上から、現在の不甲斐なきを慨き「自分は此等の事を思ふ時は邦家前途の爲に杞憂を抱かざるを得るのである」と憂國の士をして齊しく涙を湧かしむるものがある。

一讀三嘆、愼思專念すれば、その天に祈り、神に感謝し、人の子の幸福を希ひ、世を慨し、國を憂ひ、言々肺腑をつき、句々肝胆を刺す、眞の教育者の聲、方に斯の如きものがある。

綜合淺野中學が公立私立を通じてその選を異にせるは、一、彼の財界の偉傑淺野翁の理想を實現するため、設置された巨額百萬の財産法人であることである。二、人材養成を以つて飽くまで中等教育の大使命とする故、教育は全人的綜合的活動的であつて、名利本位、打算主義、切實的準備教育の間に合せの嘘の教育をやつてゐないこと。三、我國産業勃興、海外發展、國際協調、人類愛の上に教育の功



果を現前すべく大々的に教育の社會化、實際化作業化を圖りつゝあることである。

かくして故淺野翁の遺志を永遠に語るものが淺野中學であり、其の抱負の實現に寢食を忘るる人が水崎校長であるその理想や明徹にして國家的、世界的であり、その人や崇高にして、一代の學匠である。

今や思想に、經濟に、國防に、外交に、紛々擾々、多難多事の時、所謂この新しき時代の要求として綜合教育は當に擡頭しつゝあるのだ、

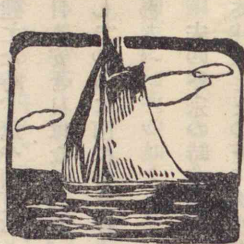
逝にし翁の雄圖は永遠にして活き、而も故翁の芳魂を慰むべき時、今哉到れるに際して、一度水崎校長の心事に想到せんか、語る所果して何物であらうか。

## 訓 誨

水崎校長が、或年の卒業式に卒業生へなされた訓誨の一齣と、よく似たことを楚人冠は次の如におもしろくかいてゐる。

「英雄豪傑たらんよりも、只一箇平凡なる良市民たれ、家に在りては父母を敬し、妻子を慈しみ、外に出ては先輩同僚と睦み、電車に乗りては車掌と喧嘩せず、錢湯に行きては三介に小言を喰はさず、「活動」に入りては女の手を引つ張らず、物を買へば金を拂ひ、手紙を貰へば返事を出す今の青年に求むべき所これを措いて他あらんや。」

(楚人冠)



# 元寇に就いて

史料編纂官  
國學院大學教授

岩橋小彌太

「今茲は元寇役後六百五十年なり、八月二十二日鎌倉鶴岡八幡に於いて其の記念祭が執行せられた。回顧すれば、時は弘安四年夏五月鯨鯨十萬舳艫相ふくんで玄海洋上を壓す。上下をあげて天震ひ、地撼けりこの累卵の危局に直面せる時、恰もよし我に快男子相模太郎時宗ありて之を斷す。膽斗の如く、智明星の如し、佛日庵裡徐に風を呼んで銷夏の料ともならばと、敢えて重複をいとはず、斯篇をかゝぐ」

## 一、蒙古の勃興

蒙古は支那の北方に興つた野蠻人の國を建てたもので、彼自身では蒙竊といつてゐた。蒙竊とは勇敢とか、銀とかの意を表はす語であるから、畢竟我は勇敢なる人種であるといふ意味を表したのであらふ。

蒙古は歴史上すでに唐の時代に表はれて居て、史上には蒙兀、室韋、蒙瓦部といふ語がのつて居るが、之は皆蒙古をさしたのである。

原住地は黒龍江の上流オノン・ケルレンの兩河の間に遊

牧せる一部落であつたのであるが、ハブルが其酋長となるに及び勢益々盛となり、蒙古種族を統一して汗についた。

ハブルの五世の孫を鐵木眞といふ。鐵木眞は大略あり、能く兵を用ひ、首としてナイマンを降し、連りに近隣の諸部

を併せ、十二世紀の中頃、蒙古を統一して帝位につき始めて成吉思汗と稱した。愈々四方を征服した。蒙古帝國とし

て後統一された。領土は西の歐羅巴から東は日本海、南は



印度洋に及んでゐた。實に世界始まつて以來の大帝國である。

成吉思汗は其の領土を四人の子供に分けて、自分は十三世紀の始死んだ。三人目の子供の窩渾臺（支那の歴史で元の太宗にあたる）がクリブタイの決議により大帝國の成吉思汗となつた。父の志をついで金を滅ぼし、ついで宋を侵して連りに諸州を取つた。其の子貴由（定宗）を経て、姪蒙哥（憲宗）が立つた。之は十三世紀の中頃であつた。次にたつたのが忽必烈（世宗）である。世宗は兄があつたので之と位を争つてついに之を屈服して位についたのである。我文永八年に當る時國號を元とあらためた。其より前日本に通信使を出したが此の國號はなかつた。

當時の支那の状態はどうであつたかといふに、南の方の宋はまだ滅びず國勢を保つてゐた、宋が始めて中元に國を建てた時、遼や西夏が北にあつて絶えず之と争つてゐて一日も安き日はなかつた。其上遼の北に金が興つて宋を壓迫してついに南に宋を逐つた。南にうつてたつたのが南宋である。

宋の寧宗の時成吉思汗は西夏をうち、之を下し金を征して其地をとつた。次の太宗の時、元は宋と結んで金を滅ぼ

してしまつた。

翻つて朝鮮半島の形勢を見れば、王建が高麗のもとをたて遂に半島を統一した。之が高麗の太宗である。元來朝鮮に國を建つるものは常に支那の政策を奉じてをつたのであるが、高麗の高宗の代になると帝はあへて蒙古に臣事しなかつたので元の太宗は怒つて之を討ち京城を陥れた。其後も四度も征伐され、卒に完全に征服されてしまつた。當時蒙古に屈服しなかつたのは宋と南の（交趾）と海の中の日本だけに過ぎなかつた。

## 二、蒙古の來寇の原因

此處に於て忽必烈は南の方宋を圖るといつしよに手を東方に延ばして日本に及んで來た。龜山天皇の文永三年（元の至元三年）八月、元は兵禮部侍郎黑的を國信使とし、禮部侍郎殷弘を副使として日本に使はした。何のために使はしたのであらふかといふに、こゝに二つの意見がある。第一は單に通商を求める爲（平和の意味）であつたといふのである。この論者が言ふには、幕府に對外知識がないため之に對する方策をあやまつてしまつたのである。平和的であつたことはそのもたらした國書にもよくあらはれてゐる。

この小さい日本に對して謙遜の語がつかつてあるし、其上領土的のことは全然ないではないかと言つてゐる。蒙古の國書には次の如くのでゐる。

上天眷命。大蒙古皇帝、書を日本國王に奉ず。朕、惟みるに、古より小國の君、境土相接する者は、信を講じ睦を修むるを務む。況んや、我が祖宗天の明命を受け、奄に區夏を有ち、避方異域威に畏れ徳に懷く者、悉く數ふ可からず、朕、即位の初め、高麗無辜の民、久しく鋒鏑に瘁むる憫み、即ち令して兵を罷めしめ、其の疆域を還し、其の旄倪を反へす、高麗の君臣、感戴して來朝す。義は君臣と雖も、而かも歡は父子の若し。計るに、王の君臣亦已に之れを知らん、高麗は朕の東藩なり。日本、高麗と密通し、開國以來亦時に中國に通ず。朕の躬に至りて、會て一乘の使を以て和好を通ずる無し、尙、恐らくは、王の國、之を知るの未だ審かならざることを、故に特使を遣り書を持し、朕の志を布告す。冀はくは自分以往、問を通じ好みを結び以て相親睦せん。且つ聖人四海を以て家と爲す。相通ぜざる、豈一家の理ならんや。兵を用ふるに至りては、其れ孰れが好む所ならんや。王、其れ之れを圖れ、不宜、黑的等はまづ高麗に渡り巨濟島に至りしも風濤の險を恐

れてむなく引き返した。忽必烈は黑的等が徒らに歸つてきたのを見て大に怒り、同年八月再び前の使者をつかはし翌五年閏正月博多についた。太宰小貳覺惠之と交渉して國書を幕府に呈した。幕府ではたゞちに朝廷に上つた。朝廷では後嵯峨上皇の仙洞御所に於て御相談遊ばされたが其結果、國書の文面に無禮の點あること、蒙古とは公に交通してゐないからとの理由のもとに返書を出さない事に決した平和論者は上に述べた様に文書には通商をしたいたためであつて、いままで、絶えていたのを盛り返さうとしたのである。尙文の終りに不宜とあるは臣下と見てゐない經國大傳の意見にも通商の意味がある……等と言つてゐるが、之は餘りに忽必烈に同情を持すぎたの偏解に過ぎない。國書には商賣しやうとする意味はあらはれてゐないし、又論者は通商は其迄絶えてゐたといふが、其は間違つた見解で決して絶えてゐなかつたのである。支那からも商人等は博多に來てゐたし、其後蒙古と戦争最中でも日本人は彼國と通商してゐたのである。尙我と彼との交は南方に於てのみ行はれたので、北方に日本人が行つた事は全然ないのである。其を北方によびよせやうとしたと考へるのも無理な事である。



尙文書を解剖して見ると其の奥には不穩の事がある『兵を用ふるに至りては、其れ孰れが好む所ならんや……の語の裏を考ふる時正直に、平和とみなすのはよくない。又一方の解釋として宋と戦つてゐる最中であるから日本と平和を結ばうとしたのである。之は假説であるが之も危ないもので日本と聯盟してなど考えるのは餘りに我を誇大視する事で、忽必烈がどの位優れた武力を持つてゐたかを思ふ時又今迄日本が外國に武力をどの位まで輝かしたかを考える時、一この價値もない考えである。又一方では當時日本の西邊の人民が高麗の沿岸をあらした。この倭寇の猖獗に、高麗の元宗が蒙古に訴へ、倭寇の報復の爲日本を伐つてもらいたいと頼んだからだと見るも、一の假説である。

然し一番正しい見解は蒙古が成吉思汗から四方を征服した。この延長と見るのが一番よろしいだらふつまり領土慾のため、日本を征服しやうとしたのであると見るのがよい當時朝廷に於ては後嵯峨上皇が四十九歳であらせられたので來年五十歳におなり遊ばすので、其の御祝を一年繰りあげて盛に祝をあげておたのであるが、ただちに之を御中止遊ばされた事は之を如何に重大視されたかがわかる。こゝに於て朝廷では先づ二十二の神に奉幣使をつかはし、

尙其他の御寺や社に命じて祈禱を行はせられた。幕府に於ても京都の加茂神社に馬を獻じて之を祈り、尙御家人に對して用心する様にとの使を出した。

### 三、朝幕の蒙古に對する知識

もしこの國書が平和的事であればこんなに驚くに足らぬが、おほさはぎになつたのは、我國のものが蒙古人とは如何なる人種かを上下とも相當に知つて居たからである。

其は蒙古人が其性質が慍悍で亂暴であるかをよく知つて居た。之は其頃の日記などにも書かれて居る。元來我々が昔の人を考える程、昔の人はのろまでなかつたのである。其頃の國民の中支那に渡つたものも多く、其上當時の人達は支那の事情を知る事を求め、支那の文化にあこがれてゐたのである、即支那の事を知る缺望が深かつた。尙當時の僧侶は法を求めるため支那に渡つたものが數ある。然も之等の中にはえらいぼうさんが多かつたのである。即ち榮西とか道元とかを始め高僧が宋に渡つた。宋の僧でも我國に亡命したものが多いが、こうした僧により執權北條氏も支那の事を深く聞いてゐたし、中には北條氏の政治の顧問となつたものもある。元來亡命したのは宋の僧であつたため、

蒙古に對する感情も決して善くなかつたむしろ悪く思つて居た。

朝廷におかせられても龜山天皇は、支那より渡來した僧により支那の事情をよく御承知遊ばされて居つた。この事は五代帝王物語の中にもつてゐて明かなことである。このやうな事情から日本は、契丹高麗の如き小國の轍を踏まない様に決然とした覺悟をもつたのである。時宗が外交政策を過まつて戦かつたといふ論者の意見はあやまりといはねばならぬ。

### 四、日蓮の豫言問題

其頃日蓮上人が蒙古襲來を豫言したといはれてゐる。今管崎の千代の松原には上人の偉大な銅像がつくられてゐるこの豫言はたして眞實の事であつたかどうかを疑ふ。なぜなれば豫言が事實とすれば、そこには古くからの計劃と見なければならぬが、之は上人について書いたものゝ内に何にも見えてゐない。尤も日蓮上人の書いた立正安國論の中に「外敵が日本を襲來するであらふ」と書いてあるが然し意味は全然ちがふ。其の頃法華經が行なはれてゐなかつたから、之が行はれなければ七難が来る。天災が頻々とし

て行はれて居るのは其れで既に五難が到つてゐるので、後の二つがこゝに到らんとしてゐるのである。其の一つは他國が我が國ををかすことで、今一つは自國に謀反が起らんと豫言したので決して蒙古襲來を豫言したのでない。經の中の語をその儘述べてあるにすぎない。日蓮の書いた本に蒙古の事が書いてあるのは、蒙古から通信があつた後の事で、日蓮が文永十一年佐渡から歸つて、鎌倉にいつた時、本年の内に外敵が襲來するであらふといつたとしてあるが之をもつて豫言したとはいへない。

### 五、對蒙古策——武備と祈禱

我國では蒙古に對して如何なる方策を立てたかといふに文永五年、幕府では北條政村が執權で、時宗が連署であつたのを職を代へ政村の連署とし、時宗を執權とした。之は年少氣鋭の時宗をして其の手腕を振はすためであつた。忽必烈は我文永六年再び黒的、殷弘を使として我國によこした。然し此使が對馬に來ると島人は拒んで寄つてなかつたので大いに怒つて、島の人を數名つれて歸つた。

忽必烈は來年七月捕虜を返し之に蒙古の中書省の手紙をもたして來た。之は九月に太宰府についたので、たゞちに



京都に送つた。然し之は前の國書よりは稍々穩やかであつた様に思はれる。朝廷に於ては返書を出すか、否か、の大分議論があつたが、結局返事を出す事にきまつた。これが民間に漏れると京都の朝野の人々は對外軟を憤つて大問題となつた。京都の西加茂の正傳寺の住職宏覺禪師（名は東巖號を慧安）は非常に憤慨した。さうしてさういふ事があつてはならぬと、六十餘日引き籠つて岩清水八幡に敵國降服の祈禱した。この祈禱文は

正傳禪寺住持東巖——慧安、大衆——某甲再拜、一心啓白す八幡大士、六十餘州一切の神等。今、日本國天神地祇、正法を以て國を治めてより以來、部類、眷屬、此の間に充滿し草木土地、山川叢澤、水陸虚空、垂迹和光の處に非ざるなし、各々威を振ひ、各々德を現じ、他方の怨賊を斫り伏せしむ可し。……略……先度の牒狀は返牒に及ばず、第二の牒狀、應さに返牒あるべく、并びに以て和親すと、風聞衛に滿つ、正傳之れを聞き、愁歎量無く悲骨骨髓に徹す古を顧み神を助け、大乘經の神呪明呪を以て、啓白發願し殷懃鄭重、己巳臘月二十七日、當社寶前に一心開白し、大歲庚午三月初一、正傳寺に於いて専心結願す。……略……切に冀くば、明神、貴賤五體の中に入り、運を増

し勢を益し、蒙古の怨敵を斫り伏せしむべし。重ねて乞ふ神道、雲を成し風を成し、雷を成し、雨を成し、國敵を摧破し、天下泰平諸人快樂ならんことを、伏して乞ふ、八幡三所權現、百王を鎮護し誓約を廢する無く、大光明を放ちて加持護念せよ。上來の啓白都べて告に違ふ莫し。天上地下、皆照覽を垂れよ。

言々勤王の精神が充ちて居る事で名高く、今國寶となつてゐる。

かゝることは宏覺禪師一人ではなく、敵愾心は我國全體を通じて盛んであつたのである。然しこの返書は決してそんなにさばぐべきものでなく、體よく斷る文面であつたのである。其の文面を左に示せば。

事情も案するに、蒙古と云ふ國號は未だ聞かない所である。我が邦は漢唐以來、使節を遣はした事はあるが、其の後中絶して居た。所へ突然の書面に接した。我が邦にては貴國の事は一向知らないものであるから、好惡の情は更になのである。好を通ぜねば兵を用ふるとは何事であるか。由來我が國は神國と稱へ、神の神靈に依つて末代國辱を受けた事はない。智慧を以て競ふべからず、力を以て争ふべからざるは我が邦の事である。よく思慮するがよい。かう

いふ意味が書いてある。即ち、蒙古は知らないだらうが、

我國は神國であつて、智識や力はおまえの國のかなふべきものでない。だから今後我國にこないやうにとの返書であつたが、幕府に其返書が届いた時、之をさへ出さないで強硬な態度を示した。

こゝで蒙古は氣がじれてきたが其でも又、文永七年趙良弼を使として國書をもつて同八年九月太宰府についた趙良弼は「今度は是非自ら京都に上つて、國書を朝廷に上つらふとしたがゆるされず、返書を十一月いつばいにもらはんとしたが其さえ出来なかつたので趙良弼は我が民の、彌次郎以下十二人を捕へて翌年正月に我國をたち、國にかへつて日本からの使者である」と國主に謁見を求めた。

文永九年彼の彌次郎等を高麗に返し、高麗王の書翰を以て家に歸つた。

文永十年再び、趙良弼を我國につかはしたが、返書を求める事が出来ないで國に歸つた。其の時元の王は趙良弼に對して我が國の事情を尋ねた時、日本を攻めるのは止めたがよい。其は國土は狭い上國人は野蠻殺伐であり、彼に渡る海上は遠く沿岸は風波が荒く航海が危険であるからと申上げた。この答によつても日本の領土を攻めとらふとして

ゐた慾望のあつた事が知れる。

日本に於ては文永八年頃から眞劍に防備を始めた。幕府は同年九月鎮西の家人其他の地方の家人に命じて防備にとめさせ、翌年九月肥前、筑前の要害を嚴重にし尙、對馬の守護代宗助國に對して其の島の要害を嚴重にせしめた。朝廷におかせられては武力はないので一途に祈禱を以て防がんとした。即異國追治の法をやつた。伊勢の大神宮や山陵に使を出して國家守護の祈りをした。

#### 六、文永の役の經過

文永八年十一月趙良弼が國を出た時、高麗に命じて軍艦を造らせ、文永十一年正月洪恭丘をして軍艦をつくるかんとくとした。五月元は忻都を總大將とし（命じたのは三月）洪茶丘を副大將とし、元兵一萬五千高麗の兵五千を合し、十月三日合浦（朝鮮の南の對馬に一番近いところ）を出發した。同月五日對馬の佐須浦についた。

守護代宗助國は八十騎を率いて防ぎ一族悉く戰死した。賊は民家に火を放ち諸々をあらして、此處より壹岐にかゝつた。守護代平景隆百餘騎をもつて防ぐも利なく自殺した元軍は肥前に渡り沿岸をあらしたが、日本の陸上に上る事



は出来なかつた。二十日には博多に攻めて來た。少貳經資、同景資、島津久經が軍を督して當つたが結果は面白からず、宮崎神社もやかれてしまつた。其晩神風が吹き元軍爲めに溺死するもの一萬三千五百人に及んだ。賊船たゞ一隻残つて志賀島にとどまつたのを攻めて之を殺した。

此の戰にあたるや叡山を初め諸々にて護王の法をあげ、龜山上皇は宸筆の願文を山陵に献じて祈つた。元軍逃げ去つたの報京都に達すると、朝廷では二十二社に御禮があつた。

### 七、幕府の征元計畫

我國は之を以て決して安心はしなかつた。いよいよ緊張を示し、翌年建治元年龜山上皇は石清水八幡に七日間も參籠遊ばされた。

伊勢大神宮、京都の十六の社に奉幣使も出した。幕府に於ても神社や御寺に祈つた。實力を頼む以外に祈りを始めたのである。民間の僧も進んで祈りを始めた。其頃幕府の權力の及んでゐたのは御家人のみであつたが、御家人以外に徴發してもよいといふ命を出した。之には朝廷のおゆるしがあつたにちがいない。五月九州はもとより長門、周防

安藝、備後の防禦を嚴にし、尙鎮西の武士にて文永の戰に出なかつたものを罪して其の士氣をしきしめた。

十一月鎮西探題を置き、北條實政をつかはし之に補した之が鎮西探題の起源である。

幕府は尙九州の武士をして元軍來寇に對して、嚴重に番をさせた。建治元年につくられた重要な防備は北海岸に石垣を造つた事である。之は博多を中心としてつくつたもので今津邊から二十五里の延長をもつてゐた今十三里もところどころ残つてゐる。而して幕府に於ては自ら支那をせめんとした。

石垣について尙述べて見ると。

其大きさは高さが一間から二丈に及んでゐる。少なくとも六尺以上あつたのだが今はくづれたりして、一尺四寸から六尺位の高さを示してゐる。上は馬が通れる様になつて居り海岸に面した方は切立つて居るが裏がははなだらになつて居る。積極的の防禦方法として、元を攻撃せんとした事はたゞに幕府の考だけでなく下のものも皆この考をもつてゐた。有名な河野通有が『十年の内に彼來らずば我より征伐せん』といつた事などからも推しはかる事が出来る。建治元年三月實政をつかはしたのも異國征伐の事が十分含ま

れてゐたのである『建治三年三月を期して、異國を征伐せよ。而して船員が九州だけで不足せば山陰、山陽、南海より徴收すべし』の令さへあつた。二年三月幕府は九州奉行大友頼泰に命じて、二十日まで船と船乗りとを調べさせ尙九州より渡らふとする人を定めしめた。其頃のものに、『異國征伐』とか『高麗征伐』とか書いてあるが之はいづれも蒙古を意味したものである。實際には行はれなかつたが人心を奮起せしめるに足つた。今後倭寇が盛に荒したのはこの蒙古征伐の片割であつたのかもしれない。

### 八、弘安の役の經過

建治元年二月忽必烈は杜世忠、中何文著に書をもたらし好を我國に通ぜしめんとした。杜世忠等は高麗をすぎ太宰府に到つた。八月之等の使者を鎌倉に護送した。幕府では之を龍口に斬つてしまつた。

弘安三年九月洪茶丘を征東大將とし宋の降將（其頃宋は滅びてゐた）とともに我國を伐つ手筈を定めしめた。之より先弘安二年六月元將范文虎は周福、欒虫に書を持たせ對馬に到らす。幕府は周福等を博多に斬つた。

元はこゝに於て弘安三年征日本政廠を建て、我を征伐す

る意をます／＼かたくした。

我國に於ては、建治二年八月山陽南海の兵をして長門を守らせ、時に九州の家人をして京都の大番の役の負擔をゆるした。

弘安二年三月關東の武士を送つて鎮西の代りの兵を増し翌年我守備軍の『行動を一つにせよ』との命を下した。

弘安三年高麗では金方慶を大將とした。弘安四年正月忻都、洪茶丘大將となり高麗にとり陸行した。之を東路軍といふ。兵數四方人合浦に越き高麗の將金方慶と合し九百隻の戰艦に分乗し、五月二十一日壹岐に來り六月十五日宗像の海上に進んだ。

一方范文虎を大將とした江南の軍十萬（江南軍）海を壓して、ともに九州にせまつた。殘島に來て愈々博多を攻略せんとした。而し日本はすでに準備が十分あつたので、うまくいかなかつた。

特に石垣に困つた。夜になれば、日本より小舟によつて大船を襲ひ一騎打の征伐を行つた。こうなれば元に於て鐵砲などを使つて集團的にやる戦法は非常な不利であり、日本には大なる利點であつた。

加ふるに、五十日も上陸出来ぬので、疫病が蔓延して非



常に困んだ其爲病死したもの、三千の多きに達した。然るに閏七月一日夜神風吹き起つて夫がため元の船の多くは覆没した、残島や鷹島に難をさけたものも、我軍の爲に打殺され捕虜となつて、七月七日さしもの大戦も終りをつけた

#### 九、戦績を顧みて

この戦にあたり龜山上皇は伊勢神宮に宸筆の願文を上り尙二萬卷の心經をお寫になつた。七月春日や伊勢に奉幣使を派遣遊ばされた。後深草上皇も春日神社をお祈り遊ばされた。當時の僧侶は皆異國を攻めやぶる様に祈つた。幕府に於ても更に中國の兵及び關東の兵六萬を遣はさんとしたが、末だ令を發せざるに戦が終りをつけたので、少しも戦役に参加しなかつたので大體九州のものだけでふせぎ戦つたと云つてよい。

かへり見れば此の戦の勝利たるや、神風のお影である。即偶然の爲の勝利であると解釋するものがあるが決してさうではない。

元が我國に攻寄せて殘虐を以てし、散々の目に合せながら、遂に陸地に根據を据えず、攻戦三ヶ月に及んで、陸上に上り得なかつた之は勿論石垣の様な防備に都合のよいも

のがあつたにもよるが、我國が専心國を思ふての爲である日本人が當時を思ふてたゞ神風に救はれたとするはよくない。我實力の爲救はれたのだといふ事をしつかり考へてもらいたい。軍艦などでも陸地に根據を置かないで陸地を攻略するは不可能である。

#### 十、戦役の影響

元は其後我國を思いきつたのでなく、支那人の士氣沮喪し大軍勢を動かす事は出来なかつたのである。一方兩度の征伐の爲高麗も經濟的に破産をきたし其爲泣き出したのである。其後忽必烈が日本を征めようとしたが、南方をせめる事が先になつて、日本を後にしたため寇をしなかつた。其内忽必烈が死んでしまつた。

元は其後經濟問題と皇位繼承問題の爲程なく減びてしまつた。

我國に於ても其後元の來寇を豫想して、石垣を築き年貢ををさえて非常手段をとつた。尙北條氏は一族のものをかはるがはる九州に送つた。之は幕府が減びる迄力を用ひたこのため幕府は經濟難に落いり、戦後に賞を與えるにさへ事を缺いた。之が幕府の減びる基となつた。戦は結局利益のあるものではない。(終)



## 縣下小學校印象記 (一)

島 村 光 蘭

### △鎌倉小學校と山口校長

日本の歴史が始まつて以來、名所舊跡は無數にあるが、殊に鎌倉と云へば少く共京都、奈良に次いで國民印象或は歴史的名聲の名所であり、舊跡であらう。その偉大な足跡は昭和の今日と云へ共國民舉つての崇敬の地でなくて何であらうか、成る程現代の鎌倉は昔日の面影は僅かに残す明治の遺物たる有名な幌馬車すらもそのかけをひそめて失つた。そしてモダンホームと別の意味における遊覽客を、(海水浴場として)中心にした近代文化の誇りは十分に發揮されたとしても、まじめな人間に取つて、否日本の國民としては尙かつ日蓮を憶ひ、頼朝を戀ひ、次は一代の偉僧釋宗演師とそれらを巡る佛教的空前の色彩は今尙我らの憧れの地であり、思慕の地である。

而も近年頗る發達した鎌倉の町は、商工農の外にブルジ

アの住宅や、別荘に住する人々をくるめて人口二萬八千を越ゆると云ふ。その鎌倉が土地の人々の意見に依ると、將來と云へ共遊覽地として、又名所舊跡の地として、あく迄も鎌倉町として存立させたいと云ふ。考へてみれば無理もない話である。筆者はこの古典から急轉直下にモダン化した鎌倉町にある二つの小學校を訪れたのである。

先づ最初に鎌倉小學校を尋ねた。かねて鎌倉師範につとめてゐられる大野教諭の紹介もあり、つゆ曇りの定かならぬ日に學校に辿りついた。

雑木林かと思はれる松の並木を海岸に近い所に女學校と相對して建てる小學校の入口は極めてさゝやかではあるがこの學校は縣下有數の學級校である。

入口でベルを鳴らすと井上訓導が取次ぎに出られた。筆者は紹介狀を出して後からついて行くと職員室に連つた八



疊許りの部屋に案内された、そこには快男子かと思はれる山口校長が急がしさにペンを走らせてゐる。

井上訓導の言葉を聞かれた山口校長は極めて無邪氣に筆者を迎へて呉れた。山口氏は如才がなくて人つきがいい。そして熱のある事は驚く許りである。氏は大體次ぎの如く語る。

「私は元京都にゐてこゝに來たものである。この學校は五十學級からあつて仲々仕事が多い。私の教育方針は教育、德育、體育上、最も完全なる發達成長をモットーとしてゐる。そして近來の傾向である郷土教育についても全世界を郷土としての郷土教育の謂ひを私個人として主張するものであつて、從來のやうに不文律なきやうあいまいな意味の郷土教育を目的としてゐない。故に職員を始め私自身が教育に熱を以つて従事する事、生ける創造としての愛の泉を基本として仕事に勉め、研學にいそしむ事を常に本願として日々を過してゐるのです。全てが兒童を本意として教育の理想に向つて進まうと云ふのです。だから職員も元氣です。はき／＼してゐます。私は實に熱を以て働く教育者に熱がなかつたら死灰も同然です」云々と縷々數千言を述べられた。筆者は山口校長の熱とそ

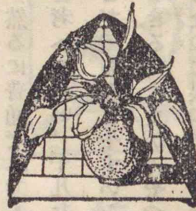
のフレッシュな意氣に深い感銘をうけずにはゐられなかつた。そして芦屋の櫻井祐男君や玉川學園の小原國芳氏や或は兒童の村小學校の職員達の自由な精神的及び科學的教育に従事する人々の中に發見される熱情と忍苦を思ひ出して山口校長が如何に初等教育者として適人者であるかを考へさせられた。

とにかく小學校を訪問して第一に評價さるべきものは實に校長の人格識見である。そしてそれが或る程度迄その學校の性質を表現してゐる事を看取するに難くない。

又現代の小學校の訓導に足りないものは進取の氣象とそれに伴ふべき熱情である。第二の國民の養成に當らうと云ふ人がこの點に缺けてゐる事は餘程考へものである。

まことにこの熱情こそパイロンを生かし、ブラウニングを生かし、さては教育界のオウソリテイベスタロツチイを生かした人類の最上の力ではないか。ソクラテスも此の熱と正義故に毒をのんだではないか。

吾人は此の愛と熱に生きたいものである。



## 今年の夏季學習帳に就いて

今年の夏季學習帳につき正直なところを告白すると、會自身でも残念ながら、不出來なことを認めざるを得なかつたよ。完本が印刷所から届いた時、紙質から來る感じだけでも、已によくなかつたのはゐるが誰しも同感であつて不合格品にしようかとさへ思へた。

然し、それも、餘りに慘酷かなと、込み上げてきた痛癢を胸先三寸でやつと喰ひ止めた始末さ。

誤植が多い、校正をしないのではない。第一回の校正が了つたら、直に其の旨主任に通し、主任は更に吟味校正をする。これが毎年の例なのだ。それでも猶誤植の若干を見残すものだ。

處が今年はこの會と印刷所との齟齬があつて、吟味校正がおとされたのだ。その顛末は、主任の考へでは、職員録を七月中旬に、夏季學習帳はおそくも七月十日迄にと、職員録原稿の方をそれだけはや目に渡しておき、一方學習

帳の校正をうけることを怠らぬやうにと、幾回となく注意を與へつゝあつた。そして職員録の校正刷を毎日の如に催促したが明日とか明後日とか言つてなか／＼持つてこようとしなう。

或日、突然、豫期してゐなかつた方の學習帳の完本を持つて來たのだ。一寸驚かされた。小叱と批評を浴せながら通覽すると誤植や、誤謬がざらにあるではないか。困つたなと思つたが、出來上つた二十五萬冊、今は如何することも出來ない。

印刷屋は、奴、初から職員録は、後廻はしにするといふ腹を据えてゐたのだな。ハツハツハ……かうした結果の根本原因らしい所を考へてみると、さうかもしれない。二十五萬といふ學習帳と、面倒な特別手数のかかる職員録との兩方を一手に引受けた。引受けるには、實は印刷所の設備に不足があつたのだ。印刷屋も狼狽せざるを得なかつた



らう。念入りに交渉する暇をもたなかつたらう。誰れがそんな印刷所と言つてみた處が、公入札であるから尻の持つて行きところは勿論ない。是は印刷屋ばかりを責められない。煎するに關係した者すべてが不行届なのだ。就中、主任の罪だ。

筆序いにて校正について一言する。校正といふ仕事は造作なくみえて實は巧いかな。或る意味からはかなり骨の折れる仕事であると言つてよい。又むづかしい仕事であるとも言へる。

活版小僧が原稿をみ誤つたり、氣を利かせた積りで却つて餘計な誤を重ねてみたり、校正子の直した通りに字母の植え換へを怠つたではないかとさへ邪推されたりする。本當は印刷所も懸命にやつてくれるのだのに、だから殆ど完全にちかひまでにするには、少なくとも四回の校正を必要とする。

然るに普通だれでも、校正の仕事はやさしいもののだにと考へやすい。平凡な仕事だと馬鹿にしてかゝる。それこそだ、組みしやすくと鵜呑みにすれば、氣が緩み心に隙ができる。大まかにやつつたり、鼻歌位で頁をめくる。そんなのに限つて、自分では誤字も誤植もないと取ります、

馬鹿にできないのが校正だ、校正の仕事ほど責任感が必要とするものはないよ。

## 職員録

これも矢張毎年多少の誤植はあるが、今年は念入りの積りで正誤表をそへた。

五月一日現在とあつてもその後の異動はできるだけ修正するから、仕事の繁雜なこと夥しい。そこに最善の努力はしたものゝ、猶一頁、教務課長四等が五等、二一頁縣奈珂が縣立奈珂、七五頁、大島が大島などの誤植が眼について見苦しい、いや恐縮恐縮。

それで、夏季學習帳職員録は勿論、其他當會の發行にかゝるものにつき、編纂内容形式等につき改訂を要すると思はれたお氣づきの所あらば、お迷惑ながら御注意下さい。

如何なる者でも、實際に使用してみたあとで、長所短所と言ふ者が判然する。それらは今後の編纂上のため非常に有力な參考となるは疑ひなきことであります。

そして年々歳々、新鮮味を加へつゝ生氣あらしたいと冀つてゐます。

## 情報



### 公報の中から

#### 小學校教員加俸令

#### 給與細則改正の辨

本令は「七月一日ヨリ之ヲ適用ス」とあれば本年九月から改正額の支給をうくる者とす。由つて参考のため之が釋義を試みることにした。(八月十一日公報参照)

従前の規定に依り年功加俸を受くる者が、別に辭令を受けざる時は次の如き算出改正支給をうけることとなるのである。

一、本則としては一、年額百圓以上の場合、其の百分の九十六の額を、二、年額百圓未満の場合は、其の百分の九十八の額を支給されるとある。

即、百圓以上ノ場合

$$106 \times \frac{96}{100} =$$

$$102.68$$

百圓未満ノ場合

$$84 \times \frac{96}{100} =$$

$$82.32$$

$$60 \times \frac{98}{100} =$$

$$58.80$$

$$36 \times \frac{98}{100} =$$

$$35.28$$

故ニ圓位未満ノ圓位ニ滿タシムベシ

$$103.68 \times 104$$

$$82.32 \times 83$$

$$58.80 \times 59$$

$$35.28 \times 36$$

トナル

百圓以上ノ場合ニ加ヘテ百圓未満ノ場合ニ加ヘテ算出スルベシ

トナル

二

以上の本則には、三つの制限が附されてある。

イ、初給最多年額(例へば小正の六拾圓)と改正加給の最多年額(三〇圓)に加給をうけた従前の回数(例へば二回)を乗した額(六十圓)とを加へた合計額(百二十圓)より改正加俸額の方が超えないこと。又初給最少年額(二四圓)と改正加給の最少年額(一八圓)に其の加給回数(例へば二回)を乗した額(三六圓)とを加へた合計額(六〇圓)より改正加俸額の方が下ら



ないこと。現在ではこの制限に該當する者は本縣にはないことである。

ロ、加俸年額百圓未満の者が、改正令による算出加俸年額九九圓―九八圓、九七圓となつた場合は、何れも九十六圓に更正給與さるゝものとす。これは本則前段の「百圓以上の場合其の百分の九十六」の條文に依り百圓と云ふ數が遞減されて九十六圓といふ絕對基本數を示すから九七、九九を認めえないことになるのである。之も本縣には該當者なしのこと。

ハ、改正加俸と本俸と合せて年額千六百十四圓（月額九七圓）を下るものには適用されないのである。

故に現在、加俸と本俸との合計が千六百十四圓であれば、改正令から除外されるのは當然のことなのである。そこで具體的に約説してみると、本令の適用を受ける者は加俸六〇圓なれば本俸九三圓以上、同八四圓なれば本俸九一圓以上、同百四圓なれば本俸八九圓以上の者に限られることになる。

それで從來年加八十四圓の一例によると九月分の請求額算出方は次の如くである。

$$(四、五、六三ヶ月分) - 84圓 \times \frac{3}{4} = 21圓$$

(七、八、九、三ヶ月分) - 83圓  $\times \frac{3}{4} = 20.75圓$   
(請 求 額) - 21圓 + 20.75圓 = 41.75  
序に専科正教員や、僻陋加俸とか單級加俸とか稱する類は全然、無關係であることを附加しておく。

## 會 報

### ○郡部小學校長各位に

#### 御挨拶と報告

七月末、指定毛筆、裁縫學習帳の二件につき各位の御意見を願ひ出ました處、早速に御回答下さいましてありがたく厚くお禮申し上げます。

眞に懇切丁寧なるお示教をうけましたことは、尠からず好参考となりました。若し實施するやうにでもなりました節は、各位貴見のある處を精々採り入れることに努め、お回示の勞を無にしないやうに致したいと存じます。

縣民讀本については

八月二十二日報告締切、六十三校、これが需用冊數一千二百六十四冊であります。で少なくとも五千冊位でないと再版をおこすに足らなう。

回報のない學校もありますから、或はこれ以上あるかも察しますが、それでも恐らく四千冊はあるまいと思ふのです。時々送本の申込みがあり或所からは、かなり多教のお申込みもありますが、そのむきには甚だお氣の毒に存じてゐます。

乍序、申し上げますが、本會から返信料付文書を以つて御回答を促すことは、貴見を尊重すると共に縣教育の進展を滑かなりしめんとするのであります。諸君に關しては必ず御回報を煩はしたいと思ひます。

都筑郡の如き全郡小學校の殆どが、回答もれないなどは、教育上一種の強味を感じるものであります。

### ○教育會理事左の如くきまる

豊田潔臣君（鎌倉師範）瀧澤又市君（二中校長）秋山岩吉君（縣立工業）齋藤元近君（青木校）曾根藤三君（高津校）坂田 祐君（關東學院）河邊良平君（第一高女）中根環堂君（鶴見高女）森 丑太郎君（足柄校）山本盛太郎君（横濱校）仙田四五郎君（藤澤校）佐々木章治君（横須賀實科）結城權兵衛君（女師）高城 研君（教育

會）秋田萬一郎君（視學）水島藤吉君（横濱市教育課長）

小田成就君（社會教育課長）守屋貫雅君（縣視學）福田

縫太郎君（船越校）杉崎正義君（上溝校）以上二〇名

○小學校商業教科書編纂委員を左記三氏に依頼す。

縣 視 學 荻原利邦

商工實習學校教諭 佐藤虎雄

同 笠井仁三郎

○實業補習學校農業教科書編纂委員を囑托す。

1 調 査 委 員 七 名

神奈川縣實業主事 草野德義

横濱市指導員 濃沼政夫

都筑郡中川小學校校長 安藤爲次

中郡大野第二小學校校長 茂 田 登

高座郡上溝小學校校長 杉崎正義

愛甲郡荻野小學校校長 清水善哉

鎌倉郡中和田小學校校長 山田豊治郎

2 起草委員目下詮衡中

○會主催小學校教員養成學科講習會終了者左の如し。

小學校本科正教員の部學科、博物四十八名、算術一科一

名、博物一科四十七名、尋常小學校本科正教員の部、教育

圖書、五十一名



### ○會計係からお願ひ

職員録又は雑誌の代金等は、當方に於いて決めました納期迄に送金をして下さい。例へば前々年度の職員録代金で未だ不納なのが三十件ある如きは整理上全く困るのです。勿論、事務がお忙はしいため、時々思ひつかれはするが、復、忘られる。此方でも、時々氣づいてみるが、復、忘れてしまふ。それで督促に督促が延び／＼して、重ね／＼たまるのですが、處が此方から御注意申あげようにも、非常に事務員が手不足なので、なか／＼繰返してをられないのです、どうかその邊をお察しを願ひます。ついでに納期を次の通にお願ひしたいと思います。

一、**本年の職員録代金**は本年九月内に御送金を煩はすこと、お送してある振替口座用紙を御使用下さい。

二、**教育會雜誌代金**は其年度一月内に御送金を煩はすこと、勿論それ以前に前納して戴くにこしたことはありません。

それで本年分は來年一月になつたら振替用紙をお送りして御請求にかへることに致したいと思いますから、豫めお含みの上宜敷お願いいたします。

### 神奈川縣下小學兒童 製作品展覽會開催

電氣の理解や應用を一般に普及する目的の下に、電氣協會關東支部が、電氣に關する兒童製作品展覽會を開催するといふ。まことに時代に適した頗る有益な試みの一つである。

兒童の工作技術や、工夫獨創力や電氣玩具の好奇的興味や、それら實用知識の開發などに貢獻するは蓋、尠なくあるまい。

縣下小學校としては一齊に、この壯舉に参加し、競つて多數出品陳列して進んで盛に後援と便宜とを與へ、この企圖をして一層教育的有意義に終らしめんことを共に希望して止まない次第である。

## 彙報

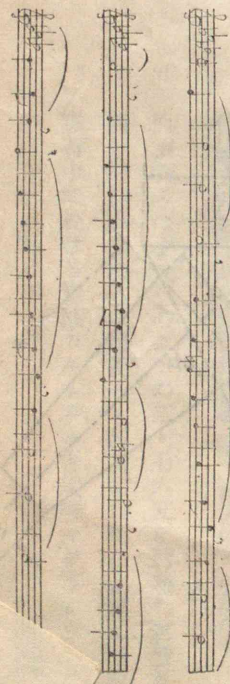
### 中等教員豫備試驗問題

#### 教育科豫備試驗問題 (昭和六年)

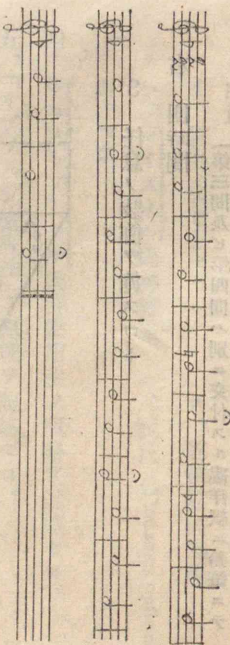
- 一、みるノ歸納的研究法ヲ學ゲテ之ヲ説明セヨ。
  - 二、注意作用ノ發達ヲ述ベテ教育上注意スベキ諸點ヲ學ゲヨ。
  - 三、じよん・でゆいノ教育說ヲ略述シテ之ヲ批評セヨ。
  - 四、明治維新以後ノ本邦實業教育ノ發達ヲ概説セヨ。
  - 五、教育史ニ於ケル歐洲文藝復興ノ意義ヲ明カニシ、且其影響ヲ述ベヨ。
  - 六、學校ニ於ケル教授ト訓練トノ關係ヲ論ゼヨ。
- 右 四時間  
注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

### 音樂科豫備試驗問題 (昭和六年)

- 一、師範學校ト中等學校トニ於ケル音樂科教授上差別スベキ點ヲ記セ。
- 二、左ノ樂語ニツキ簡單ニ説明セヨ。
  - a 動機 (Motif)
  - b 樂段 (Period)
- 三、次ノ旋律ノ下ニ三聲音ヲ附シテ四部曲トナスベシ



- 四、簡單ナル方法ニテ左ノ二ツノ轉調ヲ五線譜表上ニ記載セヨ。
    - a (ト)長調ヨリ 嬰ヘ短調ヘ
    - b 變ロ短調ヨリ ハ長調ヘ
  - 五、左ノ旋律ニ適當ナル發想記號及ビ速度記號ヲ附シテ簡易ナル伴奏ヲ附セヨ。
- (中等學校第三學年ノ程度)



右 六時間

注意 答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ



法制及經濟科豫備試驗問題 (昭和六年)

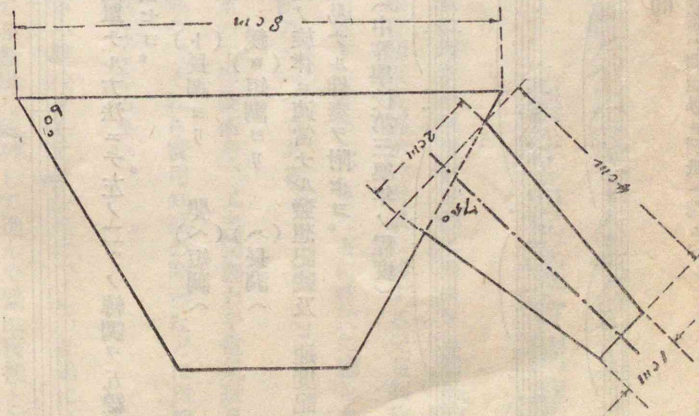
- 一、効用ト價值トノ關係ニ就テ。
- 二、通貨ノ増加ガ社會各方ニ及ボス影響ヲ問フ。
- 三、企業利潤ハ何故ニ正當ナリヤ。
- 四、警察ノ觀念ヲ説明スベシ。
- 五、契約ノ意義ヲ述ベ契約自由ノ原則ヲ論ズベシ。

右 四時間  
注意 答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

手工科豫備試驗問題 (昭和六年)

- 一、手工科ト作業科トノ異同ヲ辯ゼヨ。
- 二、金屬接合ノ諸方法ヲ詳記セヨ。
- 三、鐵板ヲ以テ水差ヲ作ルニ際シ大小二箇ノ圓錐管ヲ左ノ側面圖ニ示セル角度ニ接合セントス其ノ接合部ノ剖面圖ヲ畫ケ
- 但シ圖ハ現尺トシ用紙一枚ニ畫クベシ
- 四、左ノ要項ニ依リ支關用傘立ノ圖案ヲ作レ
- 1 材料 木材ヲ主トス
- 2 大サ・構造 任意但シ要部ニ寸法ヲ記入スルコト

3 任意ノ裝飾ヲ施スコト  
右 四時間  
注意 第三問及ビ第四問ハ別ニ交付スル畫洋紙ニ鉛筆ニテ認ムベシ。又答紙ハ番號順ニ重ネテ綴リ置クベシ



化學科豫備試驗問題 (第一日ノ分) 昭和六年

- (1) 十分の一モルの醋酸一立あり、此の中に醋酸ナトリウムとして加へたる醋酸イオン既に四瓦ありとせば醋酸の水素イオンの濃度幾何なるべきか、その近似値を求む。
- 但し醋酸のイオン化恆数は  $1.8 \times 10^{-5}$  なりとす。
- (2) イオンの輸率について知る所を記せ。
- (3) 自觸反應とは何か、例を擧げて説明せよ。
- (4) 鉛の冶金法並に粗製鉛より金及銀を抽出する方法を記せ。
- (5) 過マンガン酸カリウムの工業的製法を記せ。

右 三時間  
注意 答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

博物科(生理及衛生)豫備試驗問題

(昭和六年)

- 一、人體ニ於ケル瓦斯交換ニ就テ記述セヨ。
- 二、人腦半球ヲ圖示シ主ナル回轉及溝ヲ名ケ且ツ皮質中樞ノ位置ヲ記入セヨ。

三、左ノ各項ヲ簡單ニ解説セヨ。

- イ、骨瘍 (Caries)
- ロ、筋攣縮描寫圖
- ハ、マイスネル氏神經叢
- ニ、視丘 (Thalamus opticus)
- ホ、PH
- 四、ウェストフアール氏秤使用法ノ概略ヲ記述セヨ。
- 五、「オプソニン検査法」ノ原理ヲ記述セヨ。
- 六、左ノ各項ヲ簡單ニ解説セヨ。
- イ、飽和濕差
- ロ、精神低格及精神薄弱
- ハ、机腰掛ノ離尺

右 四時間  
注意 答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

化學科豫備試驗問題 (第二日ノ分) 昭和六年

- 6 白雲石 ( $\text{Ca}_2\text{Mg}(\text{CO}_3)_2$ ) の 11・七六瓦を灼熱し炭酸瓦斯を追ひ出したるに殘量一・四四瓦ありしと云ふ。白雲石中に於ける炭酸カルシウムと炭酸マグネシウムとの百分率を問ふ。
- 7 金屬錯鹽に於ける立體異性及び光學異性に就いて記せ

原子量  $\text{Ca} = 40.1$   $\text{Mg} = 24.3$



- 8 左の物質に就き知る所を記せ。  
イ、炭化石灰（カルシウムカーバイド）  
ロ、石灰窒素（カルシウムシアナミド）  
ハ、デシアンデアミド
- 9 蛋白質の分解により生ずるアミノ酸類の主なるものを挙げ之につき知る所を記せ。
- 10 例によりてメトキシル基を定量する方法を記せ。

右 三時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

### 博物科(動物)豫備試験問題 (昭和六年)

- 1 蛸蛸類と蛇類とは血縁上極めて近似せるものなることを説明せよ。
- (但し爬蟲類共通の性質を述べざるやうに注意すべし)
- 2 蝦類の任意の或一環節に於て横断面を書き各局部の名稱を附記せよ。
- 3 昆蟲類に於ける消化管の主なる型を圖示して比較せよ
- 4 次に掲ぐるものに就きて知る處を略記せよ。

甲、精子細胞(Spermatio) 乙、クシヒラ虫(Ctenoplana)  
丙、中腎(Mesonephros) 丁、胸腺(Thymus)  
戊、ランゲルハンス島(Islets of Langerhans)

- 5 蛸蟲の生活史に就き知る處を記せ。
- 6 純系(Pure line)の學說を説明せよ。
- 7 5か類の一例に就き其循環系を圖說せよ。
- 8 有尾類(Urodela)を分類して其特徴と例とを挙げよ。

右 四時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

### 博物科(植物)豫備試験問題 (昭和六年)

- 一、まんとく科植物ニ就テ知ルトコロヲ記セ。
- 二、燈心科植物の葉・莖・花ニ就テ記セ。
- 三、けかび科植物ノ實驗ヲナサントスルニハ如何ニシテ之ヲ準備スベキカ。
- 四、麻黄類ガ他ノ裸子植物ト異ナル諸點ヲ述ベヨ。
- 五、わかめハ如何ニシテ蕃殖スルカ。
- 六、葉跡・内皮・生長點ノ各ヲ略圖ニヨツテ指示セヨ。

但シ解説ヲ附ケザルコト。

- 七、(イ) 染色體ヲ染色スルニハ通常如何ナル色素ヲ用キルカ。  
(ロ) 無染色無處理ノママ染色體ヲ觀察シ得ラルルカ  
若シ觀察シ得ラルルトセバ如何ナル材料ガ適當ナリヤ。
- 八、生物體ノ量的形質ニハ常ニ彷徨變異アリ、ソノタメ只一ツ又ハ二ツノ個體ニ現ハレタル數量ニテ其形質ヲ代表スルコト不可能ナリ、若シ記載上只一ノ代表價ヲ選ブトセバ如何ナル數値ヲ用キベキカ其名稱及ビ之ヲ求ムル公式ヲ記セ。
- 九、中等程度ノ學校ニ於ケル植物科ノ目的如何。
- 一〇、含水炭素類ヲ呼吸材料トスル場合ノ呼吸率ノ値如何、併セテ其理由ヲ問フ。
- 一一、損傷ニ由ル植物體ノ再生ニ就キ二三ノ實例ヲ舉ゲテコレヲ説明セヨ。
- 一二、羊齒類精蟲ノ走化性ニ就テ記セ。
- 一三、砂丘植物ノ特性ヲ問フ。

右 四時間

注意 一 答案ニハ問題ヲ記セズシテ單ニ其番號ヲ記スベシ  
二 答案ハ第一問ヨリ第五問マデヲ一級第六問ヨリ第九問マデヲ一級第十問ヨリ第十三問マデヲ一級都合三級トシテ差出スベシ

### 英語科豫備試験問題 (昭和六年)

1. 次の文を和譯せよ。

No man, I suppose, can enjoy the dignity and exercise the authority of a "Master" over boys at school or youths at college, without catching some occasional infection of autocratic infirmity; without contracting some dictatorial or domineering habit of mind or tone of manner which affects his natural bearing and impairs his natural influence.

2. 次の文を和譯せよ。

Many people think that Nature has either no morals, or bad morals. The impression which the universe, as now interpreted, makes upon the imagination is, they say, magnificent, but terrible and cruel. Nature may be summed up by conjugating the verb "to eat" in the active and passive. The more we know about what goes on behind those scenes of natural beauty which delight and elevate our minds, the more appalled we shall be at the



wastefulness and heartless cruelty which are Nature's methods.

3. 次の文中下線を施したる部分を解釋説明せよ。

a) The reasons which any man offers to you for his own conduct betray his opinion of your character.

b) The results of the sham attack on London from the air seem to show that, contrary to the hopes of our experts, London cannot be successfully defended. Within two or three hours of a declaration of war—in the unlikely event of that formality being observed—the destruction of the capital and the massacre of its inhabitants will begin.

c) A lady advanced in age, and in a declining state of health, went, by the advice of the physician, to take lodgings in a village near the metropolis. She agreed for a suite of rooms, and coming downstairs, observed that the balustrades were much out of repair.

"These," said the lady, "must be mended, before I can think of coming to live here."  
"Oh, no, madam," replied the landlady, "that would answer no purpose, as the undertaker's men in bringing down the coffins would break them again immediately."

4. 次の文を英譯せよ。

世態は急變し、誰も未來を豫測し難い現代ではあるがこの急變の中に處して、或る「落ちつき」を持たれないものであらうか。今の人は四圍の氣流に餘りに巻き込まれ易いことを弱點とする。境遇と物質に人間が支配されると云ふ唯物論は半面の真理に過ぎないと私達は考へてそれに打克つ人間の意志の自由を忘れたいのである

5. 次の文を英譯せよ。

朝起きて時計を見たら止まつてゐた。着任の第一日はナカナカ忙しかつた。驛から學校へ行つて宿へ来て、晝から校長と教頭を訪れて、夜は吉岡君と話し込んだのだから、時計を捲く間がなかつたのである。井戸端へ顔を洗ひに行つた序に、縁側を拭いてゐた女中を呼びとめて『何時ですか』と訊いて見た。

以上 四時間

注意 三 答案は問題毎に別紙に認むべし  
辭書を用ふことを許さず

## 圖畫科(日本畫)豫備試驗問題(昭和六年)

(午前ノ部)

一、毛筆寫生 器物二個を組合せ寫生せよ。

但し彩色を施すべし。

二、現代人物の圖を畫け。但し題は任意とし、なるべく細密に畫き彩色を施すべし。

右 四時間

注意 第一問は畫箋紙に 第二問は美濃紙に畫くべし。

(午後ノ部)

圖 案

三、直徑二十センチの圓内に水仙の充顔模様を畫け。色數

隨意

右 二時間

注意 畫用紙を使用すべし。

以上

## 體操科(體操一般)豫備試驗問題(昭和六年)

### 解剖、生理、衛生問題

一、左の五項を簡単に説明せよ

"These," said the lady, "must be mended, before I can think of coming to live here."

"Oh, no, madam," replied the landlady, "that would answer no purpose, as the undertaker's men in bringing down the coffins would break them again immediately."

4. 次の文を英譯せよ。

世態は急變し、誰も未來を豫測し難い現代ではあるがこの急變の中に處して、或る「落ちつき」を持たれないものであらうか。今の人は四圍の氣流に餘りに巻き込まれ易いことを弱點とする。境遇と物質に人間が支配されると云ふ唯物論は半面の真理に過ぎないと私達は考へてそれに打克つ人間の意志の自由を忘れたいのである

5. 次の文を英譯せよ。

朝起きて時計を見たら止まつてゐた。着任の第一日はナカナカ忙しかつた。驛から學校へ行つて宿へ来て、晝から校長と教頭を訪れて、夜は吉岡君と話し込んだのだから、時計を捲く間がなかつたのである。井戸端へ顔を洗ひに行つた序に、縁側を拭いてゐた女中を呼びとめて『何時ですか』と訊いて見た。

以上 四時間

注意 三 答案は問題毎に別紙に認むべし  
辭書を用ふことを許さず

イ、肩峰(肩峰突起) ロ、腸骨前上棘

ハ、ブーバルト靱帶 ニ、筋纖維

ホ、神經單位(神經原)(ノイロン)

二、胃液の消化作用を概説せよ

三、左の二項を説明せよ

イ、水平路上の中等速度歩行に於ける消費勢力。但し單位時間、安靜仰臥時の倍數として見積ること。

ロ、蛋白質及び脂肪の人體内に於て燃焼するとき發生する勢力。但しカロリーにて示すこと。

四、身長測定上の要點を述べよ

右 二時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし。

## 體操科(體操一般)豫備試驗問題(昭和六年)

### 體操問題 (男子受験者)

一、スポーツと體操との關係に就て述べよ

二、懸垂振上の要領を説明せよ

三、倒立指導上注意すべき事項を記せ

四、整理運動に就て詳述せよ



右 二時間

## 體操問題 (女子受験者)

- 一、スポーツと體操との關係に就て述べよ
- 二、前方斜懸垂の要領を説明せよ
- 三、臂支持胸後屈(肋木)指導上注意すべき事項を記せ
- 四、整理運動に就て詳述せよ

右 二時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし。

## 圖畫科(西洋畫)豫備試驗問題 (昭和六年)

(午前の方)

水彩畫

- 一、靜物寫生 任意の構成圖

鉛筆淡彩畫

- 二、屋外寫生

右 四時間

注意 水彩畫はワットマン紙、鉛筆淡彩畫は畫用紙を使用すべし

(午後の方)

圖 案

- 三、菊花の模様化 黄、赤、黒の三色

右 二時間

注意 畫用紙を使用し、一圖描くべし

## 圖畫科(用器畫)豫備

## 試驗問題

(昭和六年)

- 一、甲。A B 八十耗、B C 百耗、A C 九十耗ノ三角形 A B C ノ底邊 B C ノ中點 P ヨリ此面積ヲ三等分セヨ。

乙。尺、寸、分ヲ示シ十尺マデ測リ得ル二十分一ノ縮尺ヲ作レ。

- 二、定點 P ヲ含ミ定平面 T ニ平行ナル平面ヲ作り且ツコノ二平面ノ實距離ヲ示セ(第一圖)。
- 三、第二圖ニ示スハ對角線ノ一ツ A C ガ平面ニ垂直ナル正方形 A B C D ヲ圓錐形ニ卷キタルモノ、水平投影ナリ、コノ直立投影ヲ作レ。
- 四、第三圖ハ環ノ投影圖ナリ、今之ヲ中心 O 及ビ P Q 二點ヲ通ル T 平面ヲ以テ切斷シタルキノ截口ヲ求メヨ。
- 五、投影圖(正投影圖)ト等角投影圖トノ異ナル點ヲ舉ケヨ

(第二日の方)

## 體操科(體操一般)豫備試驗問題

## 遊戲及競技問題 (男子受験者)

- 一、課外運動の管理に就て記せ
- 二、ピヴァット(Pivot)の要領と其の適用に就て記せ
- 三、ア式蹴球に於けるオフ・サイド(Off side)を説明せよ
- 四、短距離競走に於ける決勝線の切り方を説明せよ
- 五、跳躍技に於ける一般規則を述べよ

右 二時間

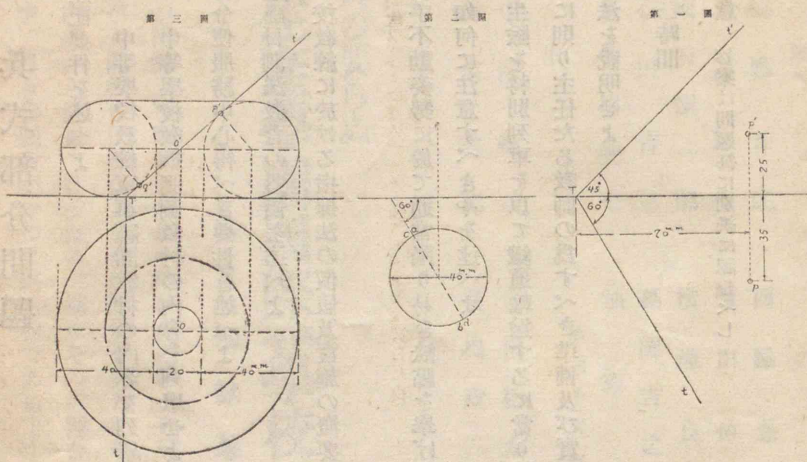
## 遊戲及競技問題 (女子受験者)

- 一、課外運動の管理に就て記せ
- 二、ピヴァット(Pivot)の要領と其の適用に就て記せ
- 三、短距離競走に於ける決勝線の切り方を説明せよ
- 四、行進遊戲の陥りやすい缺點をあげ其の原因を説明せよ
- 五、左の行進遊戲材料中より高等女學校高學年に適する材料並びに低學年に適する材料各々三つを選び、其の選擇の理由を詳述せよ

右 二時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし。

右 三時三十分

注意 (答案ハ鉛筆ニテ正確ニ畫キ要所ニハ符號ヲ附スベシ  
(答案ハ二問一枚計五枚ニ畫キ各人毎ニ一ト綴リト爲可シ)



體操科(體操<sup>兵式</sup>部分)豫備試驗問題(昭和六年)

兵式部分問題

一、左記要件を述べよ

1 中等學校教練軍事講話教材の内容を列舉せよ

2 中等學校教練測圖教材の内容を列舉せよ

二、傳令使服務中心得べき要件を述べよ

三、距離目測法教育の要領を述べよ

四、學校教練に於ける指揮法の價值及實施の概要を説明せよ

五、徒手不動姿勢に於て通常陥り易き缺點を挙げ教官として如何に注意すべきやを述べよ

六、學生隊を特別列車を以て鐵道輸送するに當り陣中要務令に則り主任たる教師の爲すべき準備及び實行の順序方法を説明せよ

右 三時間

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

◎教育相談所案内

『東京市神田區一ツ橋教育會館内』

相談事項

一、學校ノ内容特質ニ關スル件

二、入學轉學ニ關スル件

三、教育者ノ身上ニ關スル件

四、少年少女特別保護ニ關スル件

五、地方獨學者ノ手引

六、學生勉學情況ニ關スル件

七、講師ノ照會其他教育一般ニ關スル件

教育相談所ノ役員ハ各自奉仕ノ態度ヲ以テ快ク右事項ノ相談ニ應ジマス

役員

顧問

東京府學務部長 羽生 雅則

東京府學務課長 中原 啓造

文部省學生部長 伊東 延吉

東京少年審判所長 鈴木 賀一郎

帝國教育會理事 大島 正徳

東京府立第一高等女學校長 市川 源三

東京市教育局長 藤井 利譽

外十數名

學資の要らぬ

生産學園國際<sup>高等</sup>學校

九月 補 缺 募 集

常春の南海三重縣紀伊長島の地に小西博士を顧問とし今春五月から開校の同校は全く他に類例を見ない特殊な教育方針で内外から注目されてゐる。爲にその邊陲な位置にも拘はらず、日々參觀者がやつて來る程である——學資を生出す徹底せる勞作教育、人類愛へのエスペラント等による國際教育などがその目標だ。

参 與	爲藤五郎	西脇豐造
	三浦藤作	廣田傳藏
理 事	國府愼一郎	横溝良三
	石田吉三	葛岡吉之助
小 澤	長谷川彌平	加藤 因
	高市次郎	横出政五郎
高 市	德一	會根松太郎
	次郎	横出政五郎

同校の生産教育とは生徒が一般學科を學びつゝ農業、印刷、建築、家具の各種の勞作に従ふ。これは一方勞作を通じての一般陶冶職業の準備といふ點も素より重大視してゐるのであるが、之よりも更に自ら汗して働きそれによつて食ふ生活に直に心からの満足を感じる。一つの經濟的また道德的な點に最大の重要さを認めてゐるのである。そして貧しくして志を伸へ得ずともすれば危險思想にさへ傾かんとするのを穩健中正而も新日本を國內國外に於て樹立せんとの大理想を抱かしめる大方針である。

既にアマゾン流域に土地を得たので卒業生は政府の補助金を得て彼の地に渡り分校——學園村を建設の日も近づきつゝある。支那及び東洋諸民族學生の入學も兩三年後に期して實行される筈である。尙數名を限つて九月補缺入學を許す。高等小學卒業生にて堅實體格學力共に優秀なる生徒を望んでゐると。(問合せは本校宛のこと)

生産學園國際<sup>高等</sup>學校規則(三重縣紀伊長島)

一、流汗自力ヲ以テ食ヒツ、學術技能ヲ磨カントスル者ニシテ、更ニ世界的氣宇ヲ有スル國際的日本人、及日本ヲ理解セシムルタメノ外國人子弟ノ教育ヲ目的トス











教案  
中心  
理科教授の實際

本號金十六錢  
前納半ケ年二圓十八錢  
納一ケ年五圓十五錢

理科教學習態の涵養  
理科教學指導要領  
理科教授案の立て方

東京高師前訓導  
東京高師訓導  
東京高師訓導  
水堂小

林東木  
佐源  
治傳

[illegible]

五年	五年	五年	五年	五年	四年
主號	九號	七號	四號	一號	主號
教實	實地	低學	修身	總力	總力
案	地	驗本	身與	方	方
中	授	位	國史	和	和
心	業	算術	的實	實地	實地
讀	の	理	地授	業の	業の
方	新	科	業の	準備	準備
教	し	の	準備	と指導	と指導
授	い	實地	と指導		
の	仕	授			
實	方	業			
際	(五十	(六十	(五十	(五十	(六十
	錢)	錢)	錢)	錢)	錢)
	六	六	六	六	六
	年	年	年	年	年
	七	六	四	三	二
	號	號	號	號	號
	級	算	讀	教	教
	方	術	案	案	案
	案	中	中	中	中
	授	授	授	授	授
	心	心	心	心	心
	法	法	綴	修	算
	研	理	研	研	身
	究	究	究	究	究
	の	の	の	の	の
	授	授	授	授	授
	の	の	の	の	の
	仕	仕	仕	仕	仕
	實	實	實	實	實
	方	方	方	方	方
	(五十	(五十	(五十	(五十	(六十
	錢)	錢)	錢)	錢)	錢)

東柏 京木 淀一 橋四 町二 高 踏 社 電振 話替 四東 一京 谷七 七四 七五 番七